

|                   |  |     |                             |
|-------------------|--|-----|-----------------------------|
| 科目名               | 論 理 学  |     |                             |
| 開講時期              | 1 年前期  |     |                             |
| 授業時間/授業回数         | 30 時間/15 回   |     |                             |
| 担当者               | 遠藤 正水  |     |                             |
| 授業形態              | 講義   |     |                             |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小論文や報告書の作成のために必要なリテラシーを身につけ、活用できる (DP1)</li> <li>2. 看護活動に必要とされる「論理的思考」の必要性について説明できる (DP1)</li> </ol>   |     |                             |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 接続関係と文章作成の決まりごと</li> <li>3. 接続の構造と起承転結</li> <li>4. 議論の組み立てと小論文の書き方</li> <li>5. 議論の組み立てと小論文の書き方</li> <li>6. 論証の構造と起承転結</li> <li>7. 起承転結を意識した小論文の書き方</li> <li>8. 資料を踏まえた小論文の書き方</li> <li>9. 演繹と推測の違い</li> <li>10. 転を意識するための反論の仕方</li> <li>11. 結に至るための導出の評価</li> <li>12. 演繹の具体例・・・否定</li> <li>13. 演繹の具体例・・・条件構造</li> <li>14. 推論の技術</li> <li>15. 1) まとめ<br/>2) 終講試験</li> </ol> |     |                             |
| その他の授業の工夫         | なし   |     |                             |
| 時間外学修             | なし   |     |                             |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 60%・課題レポート 40%  |     |                             |
| テキスト/参考書          | 看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル  |     |                             |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">内 容</td> <td>大学、専門学校にて学生と共に考える論理学の講義を行う。</td> </tr> </table>   | 内 容 | 大学、専門学校にて学生と共に考える論理学の講義を行う。 |
| 内 容               | 大学、専門学校にて学生と共に考える論理学の講義を行う。  |     |                             |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 論理的思考のプロセスを体験する。   |     |                             |

|                   |   |         |
|-------------------|---|---------|
| 科目名               | 統計学   |         |
| 開講時期              | 1年前期  |         |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回  |         |
| 担当者               | 全 炳昊  |         |
| 授業形態              | 講義・演習   |         |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践や研究を行うための「統計学」の知識・技術の必要性を説明できる（DP1）</li> <li>2. 看護研究などに必要な統計的手法を活用できる（DP1）</li> </ol>   |         |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 度数分布とヒストグラム</li> <li>3. 平均値の意味と役割</li> <li>4. 分散と標準偏差</li> <li>5. 標準偏差の理解と活用</li> <li>6. 正規分布とは何か</li> <li>7. 仮説検定の考え方</li> <li>8. 区分推定</li> <li>9. 「部分」によって「全体」を推論する</li> <li>10. 相関・因果関係・回帰分析</li> <li>11. 質的データからわかること</li> <li>12. カイ二乗分布で推定する</li> <li>13. t分布による区間推定</li> <li>14. 実習・課題総括（まとめ）</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |         |
| その他の授業の工夫         | 身近いところからデータを取得・生成し、授業の中で実際に活用できるよう取り組む  |         |
| 時間外学修             | 医療・保険関連のデータや資料を随時まとめておく   |         |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験  |         |
| テキスト/参考書          | なし  |         |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無  |         |
|                   | 内 容   | 専門社会調査士 |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 社会調査の企画・実施・分析に関する授業（演習）の運用  |         |

|                   |  |  |
|-------------------|--|--|
| 科目名               | 情報科学   |  |
| 開講時期              | 1 年前期  |  |
| 授業時間/授業回数         | 20 時間/10 回   |  |
| 担当者               | 全 炳昊 大村 健斗   |  |
| 授業形態              | 講義・演習  |  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 情報を処理するためのコンピューターの基本的操作ができる<br>(DP1)   |  |
| 授業計画              | 1. 情報科学の基礎のキソ①<br>2. 情報科学の基礎のキソ②<br>3. オリエンテーション：(情報科学入門)<br>4. コンピューターの基礎：(MS-word 入門①)<br>5. 情報の表現と保存・伝達 (MS-word 入門②)<br>6. 情報（データ）の表現と保存：(MS-Excel 入門①)<br>7. 情報（データ）の分析：(MS-Excel 入門②)<br>8. 情報のまとめ：(PowerPoint 入門①)<br>9. プレゼンテーション：(PowerPoint 入門②)<br>10. 総括・テーマの設定と発表 | 大村<br>大村<br>全<br>全<br>全<br>全<br>全<br>全<br>全<br>全 |
| その他の授業の工夫         | 検定問題（3・4級）を授業で扱うことで、実践力につなぐ  |  |
| 時間外学修             | 普段、遊び感覚でMOSを使ってみること  |  |
| 評価方法と評価割合         | プレゼンテーションによる評価（受講生による相対評価）   |  |
| テキスト/参考書          | なし   |  |
| 主となる教員の実務経<br>験   | 有・無  |  |
|                   | 内 容  | 専門社会調査士  |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 社会調査の企画・実施・分析に関する授業（演習）の運用   |  |

|                |   |
|----------------|---|
| 科目名            | 教 育 学   |
| 開講時期           | 1 年前期   |
| 授業時間/授業回数      | 30 時間/15 回  |
| 担当者            | 石井 基博   |
| 授業形態           | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標 | <p>1. 教育が目的とする人間の成長・発達とのための学習理論について説明できる (DP2)</p> <p>2. 教育と看護の共通点についても注目し、看護活動に密接に関係する教育の意義について説明できる (DP2)</p>   |
| 授業計画           | <p>1. 教育とはなにか 1) 教育の語義と定義</p> <p>2. 教育とはなにか 1) 教育の語義と定義</p> <p>3. 教育とはなにか 2) 教育の本質</p> <p>4. 教育とはなにか 2) 教育の本質</p> <p>5. 教育とはなにか 3) 教育と看護の関連について</p> <p>6. 教育とはなにか 3) 教育と看護の関連について</p> <p>7. 教育とはなにか 3) 教育と看護の関連について</p> <p>8. 教育とはなにか 3) 看護と教育</p> <p>9. 教育と人間の成長・発達 1) 教育への教育心理学からのアプローチ</p> <p>10. 教育と人間の成長・発達 2) 人間の成長発達</p> <p>11. 教育と人間の成長・発達 2) 人間の成長発達</p> <p>12. 教育と人間の成長・発達 2) 人間の成長発達</p> <p>13. 教育と人間の成長・発達 3) 教育の2つの方向性</p> <p>14. 教育と人間の成長・発達 3) 教育の2つの方向性</p> <p>15. 教育と人間の成長・発達 3) 教育の2つの方向性</p> <p>記述試験</p> |
| その他の授業の工夫      | それぞれの授業テーマに関して、グループディスカッションおよびその後の発表・意見交換などの協同学習の形態を採り入れながら授業を進める。  |
| 時間外学修          | 自宅での学習は復習を中心に行う。また、教育学に関するレポート資料を通読して、1200 字程度の中間レポートを作成する。   |
| 評価方法と評価割合      | 中間レポート 30%・平常点 10%・終講試験 60%<br>評価の詳細については授業内で説明する。  |
| テキスト/参考書       | 教育学 (医学書院)  |
| 教員の実務経験        | <p>有・無</p> <p>内 容 高校、大学、専門学校にて社会の動向を踏まえた哲学、倫理学、教育学、人間関係論などを講師として教授する。</p>   |
| 実務経験をいかした教育内容  | 人間の理解と教育、教育と看護の関連について教授する。  |

|                |   |
|----------------|---|
| 科目名            | 倫 理 学   |
| 開講時期           | 1 年後期   |
| 授業時間/授業回数      | 20 時間/10 回  |
| 担当者            | 石井 基博   |
| 授業形態           | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標 | 1. 人間の生き方、社会の在り方についての倫理的な基本概念を説明できる (DP2)<br>2. 医療の現場で実際に直面する生命倫理・看護倫理の諸問題について考えたことを述べるができる (DP2)   |
| 授業計画           | 1. 倫理学とはなにか<br>2. 生命倫理の諸問題 1) 生命倫理とはなにか<br>3. 生命倫理の諸問題 1) 生命倫理とはなにか<br>4. 生命倫理の諸問題 2) 生命倫理の 4 原則<br>5. 看護倫理とは何か 1) 看護の倫理原則<br>6. 看護倫理とは何か 2) 看護実践上の倫理的概念<br>7. 看護倫理とは何か 2) 看護実践上の倫理的概念<br>8. 生命倫理の諸問題 3) バターナリズムからインフォームドコンセントへ<br>9. 生命倫理の諸問題 3) バターナリズムからインフォームドコンセントへ<br>10. 生命倫理の諸問題 4) パーソン論<br>終講レポート |
| その他の授業の工夫      | それぞれの授業テーマに関して、グループディスカッションおよびその後の発表・意見交換などの協同学習の形態を採り入れながら授業を進める。  |
| 時間外学修          | 自宅での学習は復習を中心に行う。また、生命倫理に関するレポート資料を通読して、1200 字程度の中間レポートを作成する。  |
| 評価方法と評価割合      | 中間レポート 30%・平常点 10%・終講レポート 60%<br>評価の詳細については授業内で説明する。  |
| テキスト/参考書       | 看護倫理 (医学書院)   |
| 教員の実務経験        | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br>内 容 高校、大学、専門学校にて社会の動向を踏まえた哲学、倫理学、教育学、人間関係論などを講師として教授する。   |
| 実務経験をいかした教育内容  | 人間の理解、社会の在り方を踏まえて、生命倫理、看護倫理について教授する。  |

|                   |   |     |          |     |        |
|-------------------|---|-----|----------|-----|--------|
| 科目名               | 社 会 学   |     |          |     |        |
| 開講時期              | 1 年後期   |     |          |     |        |
| 授業時間/授業回数         | 30 時間/15 回  |     |          |     |        |
| 担当者               | 新矢 昌昭   |     |          |     |        |
| 授業形態              | 講義  |     |          |     |        |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の社会と看護のあり方を説明できる (DP 2)</li> <li>2. 現代の家族に関するさまざまな問題について考えたことを述べる<br/>ことができる (DP 2)</li> </ol>  |     |          |     |        |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学とはどんなものか</li> <li>2. 近代社会の特徴</li> <li>3. 西洋の家族の歴史 (近代家族)</li> <li>4. 日本の家族の歴史 (近代家族)</li> <li>5. 現代社会の特徴</li> <li>6. 家族と現代社会</li> <li>7. 配偶者選択と恋愛・性</li> <li>8. ジェンダーとは何か</li> <li>9. 夫婦関係とドメスティックバイオレンス</li> <li>10. 日本の社会文化と人間関係</li> <li>11. 子どもの社会化と児童虐待</li> <li>12. 家族と看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家族の機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>①家族関係</li> <li>②疾病が患者家族に与える心理的影響</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>13. 高齢者と介護問題</li> <li>14. 世界の諸民族の社会と文化</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |     |          |     |        |
| その他の授業の工夫         | 分からない所があれば、講義後に聞いてください。   |     |          |     |        |
| 時間外学修             | なし  |     |          |     |        |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 (レポート) 100%  |     |          |     |        |
| テキスト/参考書          | プリントを適宜使用する。  |     |          |     |        |
| 教員の実務経験           | <table border="1"> <tr> <td>有・無</td> <td>私立綾羽高等学校</td> </tr> <tr> <td>内 容</td> <td>現代社会担当</td> </tr> </table>   | 有・無 | 私立綾羽高等学校 | 内 容 | 現代社会担当 |
| 有・無               | 私立綾羽高等学校  |     |          |     |        |
| 内 容               | 現代社会担当  |     |          |     |        |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 現代社会と家族、看護について教授する。   |     |          |     |        |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 英 語   |
| 開講時期              | 1 年前期   |
| 授業時間/授業回数         | 30 時間/15 回  |
| 担当者               | Jairzinho Adeyina   |
| 授業形態              | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 臨床場面に活用できる英語の能力を身につけるために、基礎的な英会話の実践ができる ((DP2・DP3))   |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduced themselves and we started looking at the characters in the book.</li> <li>2. Practicing making requests and offer.</li> <li>3. The language for getting through immigration.</li> <li>4. Make requests and how to respond.</li> <li>5. Ordering food at a restaurant.</li> <li>6. Destination :UK and did listening practice</li> <li>7. Giving directions.</li> <li>8. Can I use my card in this ATM?</li> <li>9. Do you have a non-smoking room?</li> <li>10. I have a stomachache.</li> <li>11. I'm from Japan.</li> <li>12. Destination :New Zealand</li> <li>13. We're staying five more days.</li> <li>14. What time does it start?</li> <li>15. Test</li> </ol> |
| その他の授業の工夫         | なし  |
| 時間外学修             | なし  |
| 評価方法と評価割合         | Test  |
| テキスト/参考書          | PASSPORT 1(OXFORD)  |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無<br>内 容    大学、企業にて英語、英会話を教授する。  |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | コミュニケーション能力を發揮できる学習。  |

|                |  |     |  |     |                           |
|----------------|--|-----|--|-----|---------------------------|
| 科目名            | 人間関係論  |     |  |     |                           |
| 開講時期           | 1年前期   |     |  |     |                           |
| 授業時間/授業回数      | 30時間/15回   |     |  |     |                           |
| 担当者            | 谷口 仁美  |     |  |     |                           |
| 授業形態           | 講義   |     |  |     |                           |
| 科目のねらい<br>到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分自身の性格、特にこれまで意識してこなかった自分の良い面や気をつけるべき点を確認することができる (DP 2)</li> <li>2. より充実した人間関係を送れるようにすることと、特に病む人に接する心構えを述べるができる (DP 2・DP 3)</li> </ol>  |     |  |     |                           |
| 授業計画           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理検査体験①：WAIS・MMSE など知能、認知機能について</li> <li>2. 心理検査体験②：ロールシャッハ・Baum テストの体験などパーソナリティについて</li> <li>3. ライフサイクル①：エリクソンの心理社会的危機 (前半)</li> <li>4. ライフサイクル②：エリクソンの心理社会的危機 (後半)</li> <li>5. 親の養育態度によるパーソナリティの形成：親子関係テストなど</li> <li>6. アイデンティティ：自己概念、同一性障害、20 答法の体験など</li> <li>7. 自己理解から他者理解：価値観、自己開示、受容と共感、など</li> <li>8. アサーション：適切な自己表現の必要性、DESC 法、など</li> <li>9. ストレス：ストレスのメカニズム、ストレス障害(適応障害)など</li> <li>10. 心の病①：気分障害と抑うつ状態、“死にたい”という訴え、など</li> <li>11. 心の病②：解離、自傷行為(リストカット)をする理由、など</li> <li>12. 精神力動：構造論(イド、自我、超自我)、自我機能、など</li> <li>13. カウンセリング①：聴き方 (受容・共感・繰り返し)、転移、夢</li> <li>14. カウンセリング②：行動療法、認知行動療法、分析的心理療法</li> <li>15. 患者さんとのコミュニケーション：聴くこと、わかることなど</li> </ol> |     |  |     |                           |
| その他の授業の工夫      | 心理検査や心理療法の実習など。  |     |  |     |                           |
| 時間外学修          | なし   |     |  |     |                           |
| 評価方法と評価割合      | 終講試験でご自身の考えなどを問う問題や記述式問題を予定  |     |  |     |                           |
| テキスト/参考書       | 人間関係論 (医学書院) 心理学 (医学書院)  |     |  |     |                           |
| 教員の実務経験        | <table border="1"> <tr> <td>有・無</td> <td></td> </tr> <tr> <td>内 容</td> <td>児童発達支援や精神科病院などで臨床心理士として勤務</td> </tr> </table>   | 有・無 |  | 内 容 | 児童発達支援や精神科病院などで臨床心理士として勤務 |
| 有・無            |  |     |  |     |                           |
| 内 容            | 児童発達支援や精神科病院などで臨床心理士として勤務  |     |  |     |                           |
| 実務経験をいかした教育内容  | <p>心理検査の体験や解釈を通じて、自分自身についての理解を深める。</p> <p>心理療法で用いる聴き方などのロールプレイを行う。</p> <p>実際の事例を提示しつつ、臨床に活かせる知識の共有を目指す。</p>  |     |  |     |                           |

|                   |  |        |  |
|-------------------|--|--------|--|
| 科目名               | 解剖生理学 1  |        |  |
| 開講時期              | 1 年前期  |        |  |
| 授業時間/授業回数         | 30 時間/15 回   |        |  |
| 担当者               | 深尾 晃三 石川 美佐子 安部 由美子 並川 好美  |        |  |
| 授業形態              | 講義   |        |  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 1. 人体とはどういうものか。人体の素材としての細胞・組織について説明できる (DP1)<br>2. 人体のさまざまな器官の構造と機能を結びつけて説明できる (DP1)             |        |  |
| 授業計画              | 1. 序章～第 1 章 細胞<br>第 1 章 組織～体液とホメオスタシス  | 石川     |  |
|                   | 2. 第 3 章 呼吸器の構造と機能   |        |  |
|                   | 3. 第 4 章 心臓の構造と拍出機能  | 並川     |  |
|                   | 4. 第 4 章 末梢循環系の構造  |        |  |
|                   | 5. 第 5 章 腎臓の構造と機能  |        |  |
|                   | 6. 第 5 章 体液の調節   |        |  |
|                   | 7. 第 2 章 栄養の消化と吸収 その 1<br>8. 第 2 章 栄養の消化と吸収 その 2<br>9. 第 7 章 骨格・骨格筋の構造                           | 石川     |  |
|                   | 10. 第 8 章 眼の構造と視覚<br>第 8 章 耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚・嗅覚<br>第 9 章 皮膚の構造と機能、体温                                | 安部     |  |
|                   | 11. 第 8 章 神経系の構造と機能、脊髄・脳   | 深尾     |  |
|                   | 12. 第 3 章 血液の機能  | 石川     |  |
|                   | 13. 第 6 章 自律神経、内分泌系  | 深尾     |  |
|                   | 14. 第 10 章 男性生殖器、女性生殖器   | 石川     |  |
|                   | 15. 終講試験   | 石川     |  |
|                   | その他の授業の工夫  | なし     |  |
|                   | 評価方法と評価割合  | 終講試験   |  |
| テキスト/参考書          | 解剖生理学 (医学書院) /病気の地図帳 (講談社)   |        |  |
| 教員の実務経験           | ○有・無   |        |  |
|                   | 内 容  | 医師 看護師 |  |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 臨床医としての経験と共に研究的な解剖学の視点を活かし、看護実践に活用できる授業を行う<br>また臨床現場での看護実践を活かし、人間のからだの構造と働きが生活行動に及ぼす影響について授業を行う。 |        |  |

|                   |  |       |  |     |        |
|-------------------|--|-------|--|-----|--------|
| 科目名               | 解剖生理学 2  |       |  |     |        |
| 開講時期              | 2 年後期  |       |  |     |        |
| 授業時間/授業回数         | 20 時間/10 回   |       |  |     |        |
| 担当者               | 教 員  |       |  |     |        |
| 授業形態              | 講義   |       |  |     |        |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 人体の正常な構造と機能がもとになって病気のなりたちが理解でき、治療・看護が行われることを認識し、人体の構造と機能を正確に説明することができる (DP1)   |       |  |     |        |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 素材からみた人体</li> <li>2. 栄養の消化と吸収</li> <li>3. 呼吸と血液のはたらき</li> <li>4. 血液の循環とその調節</li> <li>5. 体液の調節と尿の生成</li> <li>6. 内蔵機能の調節</li> <li>7. 身体の支持と運動</li> <li>8. 情報の受容と処理</li> <li>9. 身体機能の防御と適応</li> <li>10. 終講試験</li> </ol> |       |  |     |        |
| その他の授業の工夫         | なし   |       |  |     |        |
| 時間外学修             | なし   |       |  |     |        |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験   |       |  |     |        |
| テキスト/参考書          | 解剖生理学 (医学書院) /病気の地図帳 (講談社)   |       |  |     |        |
| 教員の実務経験           | <table border="1"> <tr> <td>(有)・無</td> <td></td> </tr> <tr> <td>内 容</td> <td>医師 看護師</td> </tr> </table>  | (有)・無 |  | 内 容 | 医師 看護師 |
| (有)・無             |  |       |  |     |        |
| 内 容               | 医師 看護師   |       |  |     |        |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 臨床現場での看護実践を活かし、人間のからだの構造と働きが生活行動に及ぼす影響について授業を行う。   |       |  |     |        |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 科目名               | 代謝栄養学 (代謝学)  |
| 開講時期              | 1 年前期  |
| 授業時間/授業回数         | 15 時間/8 回  |
| 担当者               | 木元 貴祥  |
| 授業形態              | 講義   |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 生命維持に不可欠な栄養素の働きとその代謝過程を説明できる (DP1)   |
| 授業計画              | 1. 第 1 章 代謝総論<br>第 2 章 栄養素の構造と性質：細胞<br>2. 第 2 章 栄養素の構造と性質：糖類<br>3. 第 2 章 栄養素の構造と性質：脂質、タンパク質、核酸、ビタミン<br>第 3 章 酸素<br>4. 第 4 - 1 章 糖質代謝<br>5. 第 5 章 エネルギー代謝の統合と理解<br>第 4 - 2 章 脂質代謝<br>6. 第 4 - 3 章 タンパク質とアミノ酸の代謝<br>第 4 - 4 章 核酸・ヌクレオチドの代謝<br>7. 第 6 章 遺伝情報<br>8. 終講試験 |
| その他の授業の工夫         | なし   |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験   |
| テキスト/参考書          | 臨床生化学 (メディカ出版)   |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無<br>内容 薬剤師  |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 薬剤師としての臨床経験を活かし、人間の代謝機能について授業する。   |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 代謝栄養学 (栄養学)   |
| 開講時期              | 1年後期  |
| 授業時間/授業回数         | 15時間/8回   |
| 担当者               | 達 妙美  |
| 授業形態              | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 人間にとっての栄養の意義および健康障害時の食事療法の基本を説明できる (DP1)  |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間栄養学と看護<br/>看護と栄養 食事における看護師の役割</li> <li>2. 栄養素の種類とはたらき<br/>*日本人の食事摂取基準 (2020年版)</li> <li>3. エネルギー代謝<br/>1) 三大栄養素のエネルギー</li> <li>4. 食べ物の消化と栄養素の吸収・代謝<br/>1) 消化器系のしくみとはたらき<br/>2) 栄養素の消化・吸収<br/>3) 栄養素の代謝</li> <li>5. チームアプローチと栄養ケア・マネジメント<br/>1) チーム医療における看護師の役割<br/>2) 看護師と栄養ケア・マネジメント<br/>栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画<br/>実施、モニタリング、栄養ケア・マネジメントの評価</li> <li>6. 栄養状態の評価と判定<br/>1) 栄養アセスメントの方法<br/>身体計測、臨床検査、臨床診査、食事調査</li> <li>7. 臨床栄養<br/>1) 病院食の意義<br/>2) 栄養補給法<br/>3) 疾患別食事療法</li> <li>8. 終講試験</li> </ol> |
| その他の授業の工夫         | なし  |
| 時間外学修             | なし  |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験  |
| テキスト/参考書          | 栄養学 (医学書院) /新食品成分表 FOODS2024 (東京法令出版)<br>糖尿病食事療法のための食品交換表 (日本糖尿病協会・文光堂)   |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無<br>内 容 管理栄養士  |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 多様な臨床現場で管理栄養士としての実践経験を活かし、人間にとっての栄養の意義および健康障害時の食事療法の基本について看護に生かせる授業を行う  |

|                   |   |        |
|-------------------|---|--------|
| 科目名               | 病態生理学 (病理学)   |        |
| 開講時期              | 1 年前期   |        |
| 授業時間/授業回数         | 15 時間/8 回   |        |
| 担当者               | 石川 美佐子 並川 好美  |        |
| 授業形態              | 講義  |        |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 1. 健康から疾病に至る変化のプロセスを説明できる (DP1)   |        |
| 授業計画              | 1. 病態生理学を学ぶための基礎知識<br>1) 正常と病気の状態 2) 細胞・組織の障害 3) 感染症<br>4) 腫瘍 5) 先天異常と遺伝性疾患 6) 老化と死   | 石川     |
|                   | 2. 循環障害<br>1) 虚血と梗塞 2) 充血とうっ血 3) 浮腫 4) 出血<br>5) 循環のしくみと病態生理   | 並川     |
|                   | 3. 呼吸のしくみと病態生理<br>4. 消化吸収・代謝のしくみと病態生理<br>1) 消化吸収のしくみと病態生理<br>2) 内分泌・代謝のしくみと病態生理<br>5. 免疫のしくみと病態生理. 体液調節のしくみ<br>1) 免疫のしくみ<br>2) 体液調整のしくみと病態生理<br>6. 腎・泌尿器・感覚器の働きのしくみと病態生理<br>1) 生殖のしくみと病態生理<br>2) 感覚器の働きと病態生理<br>7. 脳・神経、筋のしくみと病態生理<br>8. 終講試験 | 石川     |
| その他の授業の工夫         | なし  |        |
| 時間外学修             | なし  |        |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 50 点 病態生理学 代謝・内分泌疾患と合わせて評価する   |        |
| テキスト/参考書          | 病態生理学 (医学書院)  |        |
| 教員の実務経験           | ①・無   |        |
|                   | 内 容   | 医師 看護師 |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 臨床現場での看護実践を活かし、人間のからだの正常な働きが障害される経過と症状について授業する。また、看護に活用できる健康から疾病に至る変化のプロセスを理解できる授業を行う   |        |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 病態生理学（代謝・内分泌疾患）   |
| 開講時期              | 1年  |
| 授業時間/授業回数         | 15時間/8回   |
| 担当者               | 青木 由美子  |
| 授業形態              | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 1. 内分泌機能の障害とその治療について説明できる（DP1）<br>2. 代謝機能の障害とその治療について説明できる（DP1）   |
| 授業計画              | 1. 代謝疾患；糖尿病（1）<br>2. 代謝疾患；糖尿病（2）<br>3. 代謝疾患；脂質異常症<br>4. 代謝疾患；肥満症・痛風<br>5. 内分泌器の構造と機能、内分泌疾患の理解<br>6. 内分泌疾患の症状・検査<br>7. 内分泌疾患の理解<br>8. 終講試験 |
| その他の授業の工夫         | なし  |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 50点 病態生理学と合わせて評価する   |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔6〕内分泌・代謝（医学書院）  |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無  |
|                   | 内 容 看護師   |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 総合病院での看護師としての臨床経験を活かしとしての経験を活かし、<br>内分泌・代謝機能の障害とその治療について授業する  |

|                   |  |     |  |     |     |
|-------------------|--|-----|--|-----|-----|
| 科目名               | 微生物・感染症（微生物・感染症）   |     |  |     |     |
| 開講時期              | 1年   |     |  |     |     |
| 授業時間/授業回数         | 15時間/8回  |     |  |     |     |
| 担当者               | 木元 貴祥  |     |  |     |     |
| 授業形態              | 講義   |     |  |     |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 微生物学の基本的知識を学び、微生物等による感染症について説明できる（DP1）   |     |  |     |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物・感染症概論</li> <li>2. 呼吸器感染症</li> <li>3. 消化器系感染症</li> <li>4. 肝炎<br/>尿路感染症<br/>性感染症</li> <li>5. 皮膚・粘膜の感染症<br/>発疹とウイルス感染症<br/>脳・神経系感染症</li> <li>6. 人畜共通感染症・寄生虫感染症<br/>輸入感染症<br/>小児感染症<br/>母子感染<br/>高齢者感染症<br/>日和見感染症・移植等による感染症</li> <li>7. 感染防御機構の基礎<br/>感染・発症予防（ワクチン・滅菌・消毒）<br/>感染症の検査と治療</li> <li>8. 終講試験</li> </ol> |     |  |     |     |
| その他の授業の工夫         | なし   |     |  |     |     |
| 時間外学修             | なし   |     |  |     |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 50点 免疫・血液疾患と合わせて評価する  |     |  |     |     |
| テキスト/参考書          | 微生物学 アレルギー・膠原病・感染症（医学書院）   |     |  |     |     |
| 教員の実務経験           | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">有・無</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">内 容</td> <td>薬剤師</td> </tr> </table>   | 有・無 |  | 内 容 | 薬剤師 |
| 有・無               |  |     |  |     |     |
| 内 容               | 薬剤師  |     |  |     |     |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 薬剤師としての経験を活かし、微生物学の基本的知識と微生物等による感染症について授業する  |     |  |     |     |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 微生物・感染症（免疫・血液疾患）  |
| 開講時期              | 1年  |
| 授業時間/授業回数         | 15時間/8回   |
| 担当者               | 石川 美佐子  |
| 授業形態              | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 1. 免疫機能の障害とその治療について説明できる（DP1）<br>2. 造血機能の障害とその治療について説明できる（DP1）  |
| 授業計画              | 1. 血液の生理と造血のしくみ<br>1) 血液成分とその機能<br>（1）血球の性状と機能<br>（2）止血機構と線溶<br>2) 造血の仕組み<br>2. 造血機能の異常・貧血<br>1) 貧血の病態生理と経過・治療<br>2) 出血傾向の病態生理と経過・治療<br>3. 造血機能の異常・白血病<br>4. 化学療法・放射線療法・造血幹細胞移植<br>5. アレルギー反応とその機序<br>1) 免疫の仕組み<br>6. アレルギー疾患<br>7. 自己免疫疾患<br>1) 膠原病の定義<br>2) 全身性エリテマトーデスの症状・経過・治療<br>3) 慢性関節リウマチの症状・経過・治療<br>8. 終講試験 |
| その他の授業の工夫         | なし  |
| 時間外学修             | なし  |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 50点 微生物・感染症と合わせて評価する   |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔4〕血液・造血器（医学書院）<br>成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）  |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="checkbox"/> ・無<br>内 容 看護師   |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 血液内科での臨床経験を活かし、免疫機能・造血機能の障害とその治療について授業する  |

|                   |   |     |     |
|-------------------|---|-----|-----|
| 科目名               | 疾病と治療1 (呼吸器疾患)  |     |     |
| 開講時期              | 1年  |     |     |
| 授業時間/授業回数         | 10時間/5回   |     |     |
| 担当者               | 石川 美佐子  |     |     |
| 授業形態              | 講義  |     |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 呼吸機能の障害とその治療について説明できる (DP1)   |     |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器の構造と機能<br/>換気・ガス交換・酸塩基平衡</li> <li>2. 症状とその病態生理</li> <li>3. 検査と治療・処置<br/>1) COPDの病態関連図</li> <li>4. 検査と治療・処置<br/>2) 肺がんの病態関連図</li> <li>5. 検査と治療・処置<br/>3) 感染症<br/>4) 間質性肺炎<br/>5) 自然気胸<br/>6) 悪性胸膜中皮腫<br/>7) 肺結核</li> <li>6. まとめ 終講試験</li> </ol> |     |     |
| その他の授業の工夫         | なし  |     |     |
| 時間外学修             | なし  |     |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 30点分 循環器疾患、消化器疾患と合わせて評価する  |     |     |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔2〕呼吸器 (医学書院)  |     |     |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">内 容</td> <td>看護師</td> </tr> </table>   | 内 容 | 看護師 |
| 内 容               | 看護師   |     |     |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、呼吸機能の障害とその治療について授業する   |     |     |

|                   |  |     |         |
|-------------------|--|-----|---------|
| 科目名               | 疾病と治療1 (循環器疾患)   |     |         |
| 開講時期              | 1年後期   |     |         |
| 授業時間/授業回数         | 10時間/5回  |     |         |
| 担当者               | 森元 茜   |     |         |
| 授業形態              | 講義   |     |         |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 循環機能の障害とその治療について説明できる (DP1)  |     |         |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心臓の解剖と生理</li> <li>2. 心不全の診断と治療</li> <li>3. 虚血性心不全の診断と治療</li> <li>4. 大動脈瘤・弁膜症</li> <li>5. 1) 高血圧<br/>2) まとめ 終講試験</li> </ol>             |     |         |
| その他の授業の工夫         | なし   |     |         |
| 時間外学修             | なし   |     |         |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 30点分 呼吸器疾患、消化器疾患と合わせて評価する   |     |         |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔3〕循環器 (医学書院)   |     |         |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">内 容</td> <td>看護師 保健師</td> </tr> </table> | 内 容 | 看護師 保健師 |
| 内 容               | 看護師 保健師  |     |         |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 循環器内科での臨床経験を活かし、循環機能の障害とその治療について授業する   |     |         |

|                   |   |     |    |
|-------------------|---|-----|----|
| 科目名               | 疾病と治療1 (消化器疾患)  |     |    |
| 開講時期              | 1年前期  |     |    |
| 授業時間/授業回数         | 10時間/5回   |     |    |
| 担当者               | 清田 清史   |     |    |
| 授業形態              | 講義  |     |    |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 栄養摂取・代謝機能の障害とその治療について説明できる (DP1)  |     |    |
| 授業計画              | 1. 食道がん 食道アカラシア<br>胃食道逆流症<br>2. 胃・十二指腸疾患<br>胃炎・慢性胃炎・機能性ディスペプシア・ピロリ菌<br>胃・十二指腸潰瘍<br>3. 胃癌 (分類・原因・治療)<br>4. 腸炎・胆のう炎<br>5. 1) 結腸憩室・ポリープおよびポリポース<br>大腸がん・肛門疾患<br>肝不全・肝障害・脂肪肝<br>2) まとめ 終講試験 |     |    |
| その他の授業の工夫         | なし  |     |    |
| 時間外学修             | なし  |     |    |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 40点分 呼吸器疾患、循環器疾患と合わせて評価する  |     |    |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔5〕消化器 (医学書院)  |     |    |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">内 容</td> <td>医師</td> </tr> </table>             | 内 容 | 医師 |
| 内 容               | 医師  |     |    |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、栄養摂取・代謝機能の障害とその治療について授業する   |     |    |

|                   |   |     |     |
|-------------------|---|-----|-----|
| 科目名               | 疾病と治療2 (脳神経疾患)  |     |     |
| 開講時期              | 1年後期  |     |     |
| 授業時間/授業回数         | 10時間/5回   |     |     |
| 担当者               | 村松 宏美   |     |     |
| 授業形態              | 講義  |     |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 中枢神経機能の障害とその治療について説明できる (DP1)   |     |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大脳・小脳・脳幹の役割について</li> <li>2. 脳神経 12 対、意識障害の評価 (JCS・GCS)</li> <li>3. クモ膜下出血 (検査・治療・合併症・看護)</li> <li>4. 脳出血、正常圧水頭症、脳梗塞 (発生機序など)</li> <li>5. 1) 脳梗塞 (治療・検査など)、もやもや病、頭部外傷<br/>2) まとめ 終講試験</li> </ol> |     |     |
| その他の授業の工夫         | パワーポイントでの可視化  |     |     |
| 時間外学修             | なし  |     |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 40点分 運動器疾患、腎・泌尿器疾患と合わせて評価する  |     |     |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔7〕脳・神経 (医学書院)   |     |     |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">内 容</td> <td>看護師</td> </tr> </table>  | 内 容 | 看護師 |
| 内 容               | 看護師   |     |     |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 脳神経外科での臨床経験と認定看護師としての経験を活かし、中枢神経機能の障害とその治療について授業する  |     |     |

|                   |   |       |  |     |     |
|-------------------|---|-------|--|-----|-----|
| 科目名               | 疾病と治療2 (運動器疾患)  |       |  |     |     |
| 開講時期              | 1年後期  |       |  |     |     |
| 授業時間/授業回数         | 10時間/5回   |       |  |     |     |
| 担当者               | 石川 美佐子  |       |  |     |     |
| 授業形態              | 講義  |       |  |     |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 運動機能の障害とその治療について説明できる (DP1)   |       |  |     |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動器の機能と意義</li> <li>2. 運動器の機能を知るための方法</li> <li>3. 運動器機能障害における診断と治療</li> <li>4. 運動機能障害における治療・処置</li> <li>5. 1) 運動器疾患と治療<br/>2) 終講試験</li> </ol>          |       |  |     |     |
| その他の授業の工夫         | なし  |       |  |     |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 30点分 脳神経疾患、腎・泌尿器疾患と合わせて評価する  |       |  |     |     |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔10〕運動器 (医学書院)   |       |  |     |     |
| 教員の実務経験           | <table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">(有)・無</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">内 容</td> <td>看護師</td> </tr> </table> | (有)・無 |  | 内 容 | 看護師 |
| (有)・無             |   |       |  |     |     |
| 内 容               | 看護師   |       |  |     |     |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 総合病院での整形外科処置の経験を活かし、看護の視点に立った運動機能の障害とその治療について授業する   |       |  |     |     |

|                   |   |       |  |     |    |
|-------------------|---|-------|--|-----|----|
| 科目名               | 疾病と治療2 (腎・泌尿器疾患)  |       |  |     |    |
| 開講時期              | 1年後期  |       |  |     |    |
| 授業時間/授業回数         | 10時間/5回   |       |  |     |    |
| 担当者               | 山田 龍一   |       |  |     |    |
| 授業形態              | 講義  |       |  |     |    |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 排泄機能の障害とその治療について説明できる (DP1)   |       |  |     |    |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腎臓の構造と機能</li> <li>2. 尿管・膀胱・男性生殖器の構造と機能</li> <li>3. 泌尿器の検査</li> <li>4. 泌尿器系の疾患と治療</li> <li>5. 1) 泌尿器系の疾患と治療<br/>2) まとめ 終講試験</li> </ol>   |       |  |     |    |
| その他の授業の工夫         | スライドを多用して理解を深める   |       |  |     |    |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 30点分 脳神経疾患、運動器疾患と合わせて評価する  |       |  |     |    |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 (医学書院)  |       |  |     |    |
| 教員の実務経験           | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">(有)・無</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">内 容</td> <td style="text-align: center;">医師</td> </tr> </table> | (有)・無 |  | 内 容 | 医師 |
| (有)・無             |   |       |  |     |    |
| 内 容               | 医師  |       |  |     |    |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、排泄機能の障害とその治療について授業する  |       |  |     |    |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 科目名               | 疾病と治療3 (女性生殖器)   |
| 開講時期              | 1年後期   |
| 授業時間/授業回数         | 15時間/8回  |
| 担当者               | 吉村 猛   |
| 授業形態              | 講義   |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 1. 女性生殖器の構造と機能を説明できる (DP1)<br>2. ライフステージ別に、起こりやすい疾患と・検査・治療・処置について説明できる (DP1)   |
| 授業計画              | 1. 女性生殖器の構造と機能<br>症状とその病態生理<br>2. 診察、検査と治療、処置<br>器具の確認<br>遺伝子、染色体、DNAの違いの説明<br>3. 疾患の理解<br>性分化の疾患～骨盤腹膜炎<br>4. 疾患の理解<br>乳房の疾患 機能性疾患<br>5. 妊娠の異常<br>6. 出産時の異常<br>7. 産褥時の異常<br>まとめ<br>8. 終講試験 |
| その他の授業の工夫         | 図や動画など可視化できる資料を多用し理解を深める   |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 60点分 視覚機能障害、聴覚機能障害、歯科・口腔器疾患、皮膚の障害と治療と合わせて評価する   |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔9〕女性生殖器 (医学書院)   |
| 教員の実務経験           | (有)・無  |
|                   | 内 容 医師   |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、女性生殖器機能の障害とその治療について授業する。   |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 疾病と治療3 (感覚器疾患：視覚機能障害)                             |
| 開講時期              | 1年後期  |
| 授業時間/授業回数         | 4時間/2回  |
| 担当者               | 安藤 誠  |
| 授業形態              | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 感覚機能の障害とその治療について説明できる (DP1)                       |
| 授業計画              | 1. 眼疾患患者の接し方<br>眼の解剖生理<br>2. 検査および疾患各論            |
| その他の授業の工夫         | なし  |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 10点分 女性生殖器、聴覚機能障害、歯科・口腔器疾患、皮膚の障害と治療と合わせて評価する |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔13〕眼 (医学書院)                                 |
| 教員の実務経験           | (有)・無   |
|                   | 内 容 医師  |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、感覚機能とその治療について授業する                   |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 疾病と治療3 (感覚器疾患：聴覚機能障害)                             |
| 開講時期              | 1年後期  |
| 授業時間/授業回数         | 4時間/2回  |
| 担当者               | 識名 崇  |
| 授業形態              | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 感覚機能の障害とその治療について説明できる (DP1)                       |
| 授業計画              | 1. 耳鼻咽喉の解剖生理<br>2. 耳鼻咽喉疾患の理解                      |
| その他の授業の工夫         | なし  |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 10点分 女性生殖器、視覚機能障害、歯科・口腔器疾患、皮膚の障害と治療と合わせて評価する |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 (医学書院)                              |
| 教員の実務経験           | (有)・無   |
|                   | 内 容 医師  |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、感覚機能とその治療について授業する                   |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 疾病と治療3 (感覚器疾患：歯科・口腔器疾患)                         |
| 開講時期              | 1年後期  |
| 授業時間/授業回数         | 3時間/2回  |
| 担当者               | 岩谷 俊彦   |
| 授業形態              | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 感覚機能の障害とその治療について説明できる (DP1)                     |
| 授業計画              | 1. 歯・口腔の解剖生理<br>2. 歯・口腔疾患の理解                    |
| その他の授業の工夫         | なし  |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 10点分 女性生殖器、視覚機能障害、聴覚機能障害、皮膚の障害と治療と合わせて評価する |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔15〕歯・口腔 (医学書院)                            |
| 教員の実務経験           | (有)・無<br>内 容 医師                                 |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、感覚機能とその治療について授業する                 |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 疾病と治療3 (感覚器疾患：皮膚の障害と治療)                           |
| 開講時期              | 1年後期  |
| 授業時間/授業回数         | 4時間/2回  |
| 担当者               | 安部 由美子  |
| 授業形態              | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 感覚機能の障害とその治療について説明できる (DP1)                       |
| 授業計画              | 1. 皮膚の構造と機能、症状とその病態、検査 疾患の理解 (I)<br>2. 疾患の理解 (II) |
| その他の授業の工夫         | なし  |
| 時間外学修             | なし  |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 10点分 女性生殖器、視覚機能障害、聴覚機能障害、歯科・口腔器疾患と合わせて評価する   |
| テキスト/参考書          | 成人看護学〔12〕皮膚 (医学書院)                                |
| 教員の実務経験           | (有)・無<br>内 容 看護師                                  |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 看護師としての臨床経験を活かし、皮膚の機能の障害とその治療について授業する             |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 疾病の看護学視点  |
| 開講時期              | 1年後期  |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回  |
| 担当者               | 森元 茜  |
| 授業形態              | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心臓の正常な働きが説明できる (DP1)</li> <li>2. 陳旧性心筋梗塞による冠状動脈の形態の変化が説明できる (DP1)</li> <li>3. 病因・形態の変化をふまえ、心臓の機能の変化について説明できる (DP1)</li> <li>4. 患者の示す症候を説明できる (DP1)</li> <li>5. 治療について説明できる (DP1)</li> </ol>   |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病治療の看護学視点とは<br/>看護学視点で患者を理解する意義</li> <li>2. 心不全患者の事例紹介</li> <li>3. 心不全の病態の理解～疾病理解の看護学視点を用いた関連図の作成～</li> <li>4. 心不全の病態の理解～疾病理解の看護学視点を用いた関連図の作成～</li> <li>5. 心不全の病態の理解～疾病理解の看護学視点を用いた関連図の作成～</li> <li>6. 心不全の病態の理解～疾病理解の看護学視点を用いた関連図の作成～</li> <li>7. 心不全の病態の説明</li> <li>8. 心不全の病態の説明</li> <li>9. 心不全の病態の説明</li> <li>10. 心不全の治療 (PCI)</li> <li>11. 心不全の治療 (薬物療法)</li> <li>12. 心不全の治療 (食事療法)</li> <li>13. 心不全の治療 (リハビリテーション)</li> <li>14. 心不全のまとめ</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |
| その他の授業の工夫         | アクティブラーニングを取り入れ、主体的に学べるようにする  |
| 時間外学修             | なし  |
| 評価方法と評価割合         | 記述試験  |
| テキスト/参考書          | カラーで学べる病理学 (ヌヴェル・ヒロカワ)・解剖生理学 (医学書院)<br>成人看護学〔3〕循環器 (医学書院)   |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無<br>内 容    看護師   保健師  |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 循環器内科での臨床経験を活かし、看護の視点で疾病がもたらす身体の内部的変化について、病態生理的に理解して、疾病の成り立ちや症状について理解できる授業を行う   |

|                   |  |     |           |
|-------------------|--|-----|-----------|
| 科目名               | 治療論（麻酔と外科的療法）  |     |           |
| 開講時期              | 1年後期   |     |           |
| 授業時間/授業回数         | 15時間/8回  |     |           |
| 担当者               | 古川 美紀  |     |           |
| 授業形態              | 講義   |     |           |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 外科的治療を受けた対象の生体反応を理解し、回復を促進するための支援を学ぶ   |     |           |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術療法とは <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「手術を受ける」とは</li> </ol> </li> <li>2. 手術侵襲と生体反応 <ol style="list-style-type: none"> <li>2) ホメオスタシス維持のために</li> </ol> </li> <li>3. 麻酔の種類とその影響 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 麻酔とは</li> <li>2) 全身麻酔</li> <li>3) 局所（区域）麻酔</li> </ol> </li> <li>4. 麻酔の種類とその影響 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 術前・術中・術後管理</li> </ol> </li> <li>5. 特徴的な手術療法とその影響 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象に合わせた手術治療</li> <li>2) 最先端手術・低侵襲手術・移植医療</li> </ol> </li> <li>6. 終講試験</li> </ol> |     |           |
| その他の授業の工夫         | なし   |     |           |
| 時間外学修             | なし   |     |           |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 50点分 リハビリテーションと合わせて評価する   |     |           |
| テキスト/参考書          | 臨床外科看護総論（医学書院）   |     |           |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="checkbox"/> ・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">内 容</td> <td>手術看護認定看護師</td> </tr> </table>   | 内 容 | 手術看護認定看護師 |
| 内 容               | 手術看護認定看護師  |     |           |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 手術看護認定看護師としての臨床経験を活かし、外科・麻酔の治療を受ける対象の生体反応を理解し、回復を促進するための支援について授業する   |     |           |

|                   |   |     |       |
|-------------------|---|-----|-------|
| 科目名               | 治療論（リハビリテーション）  |     |       |
| 開講時期              | 1年後期  |     |       |
| 授業時間/授業回数         | 15時間/8回   |     |       |
| 担当者               | 神田 龍馬   |     |       |
| 授業形態              | 講義・演習   |     |       |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術について説明できる（DP1）</li> <li>2. リハビリテーション技術の実施ができる（DP1）</li> </ol>   |     |       |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション概論、リハビリテーション評価</li> <li>2. リハビリテーション評価<br/>動作に必要な筋力</li> <li>3. 運動器リハビリテーション</li> <li>4. リハビリテーションの評価実習（ROM・MMT）</li> <li>5. 脳血管リハビリテーション<br/>心臓リハビリテーション</li> <li>6. 呼吸器リハビリテーション<br/>患者介助演習：起き上がり、寝返り</li> <li>7. 患者介護演習：立ち上がり、車椅子移乗</li> <li>8. 終講試験</li> </ol> |     |       |
| その他の授業の工夫         | なし  |     |       |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 50点分 麻酔と外科的療法と合わせて評価する   |     |       |
| テキスト/参考書          | リハビリテーション看護（医学書院）   |     |       |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">内 容</td> <td>理学療法士</td> </tr> </table>   | 内 容 | 理学療法士 |
| 内 容               | 理学療法士   |     |       |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 理学療法士としての臨床経験を活かし、リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術を授業する   |     |       |

|                   |  |     |     |
|-------------------|--|-----|-----|
| 科目名               | 薬理学  |     |     |
| 開講時期              | 1年後期   |     |     |
| 授業時間/授業回数         | 20時間/10回   |     |     |
| 担当者               | 天正 雅美  |     |     |
| 授業形態              | 講義   |     |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物の薬理作用および人体の影響と薬物の管理について説明できる (DP1)</li> <li>2. 臨床で有害な作用を早期に発見し、対応するための視点を述べることができる (DP1)</li> </ol>  |     |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理学とは 薬理学を学ぶにあたって<br/>薬理学の基礎知識 (総論)</li> <li>2. 薬物代謝と排泄</li> <li>3. 感染症治療に関する基礎知識<br/>抗菌薬</li> <li>4. 抗菌薬・抗ウイルス薬・抗真菌薬<br/>末梢神経に作用する薬物</li> <li>5. 中枢神経に作用する薬物</li> <li>6. 循環器系に作用する薬物</li> <li>7. 循環器系に作用する薬物</li> <li>8. 血液凝固系・線溶系に作用する薬物</li> <li>9. 物質代謝に作用する薬物</li> <li>10. 1) 抗がん薬<br/>2) まとめ 終講試験</li> </ol> |     |     |
| その他の授業の工夫         | なし   |     |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験   |     |     |
| テキスト/参考書          | 薬理学 (医学書院)   |     |     |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有    無  |     |     |
|                   | <table border="1"> <tr> <td>内 容</td> <td>薬剤師</td> </tr> </table>   | 内 容 | 薬剤師 |
| 内 容               | 薬剤師  |     |     |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 薬剤師としての臨床経験を活かし、薬物の薬理作用および人体への影響と薬物の管理について授業する   |     |     |

|                   |   |             |
|-------------------|---|-------------|
| 科目名               | 社会システムと健康   |             |
| 開講時期              | 1年前期  |             |
| 授業時間/授業回数         | 15時間 /8回  |             |
| 担当者               | 石川 美佐子  |             |
| 授業形態              | 講義 演習   |             |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会システムについて説明できる (DP1)</li> <li>2. 社会システムを学ぶ意義が述べられる (DP1)</li> <li>3. 地域について説明できる (DP 1)</li> <li>4. 健康を支える法律が説明できる (DP1)</li> <li>5. 豊中市の特徴を説明できる (DP1)</li> <li>6. 豊中市オリエンテーリングに参加することができる (DP1・DP4)</li> <li>7. 豊中市豊島地区の特性と互助活動について説明できる (DP1)</li> <li>8. 地域活動に参加できる (DP 1・DP 4・DP5)</li> </ol>   |             |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「社会システム」とは何か <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会システムを学ぶ意義</li> <li>2) 地域社会</li> </ol> </li> <li>2. 健康を支える法律 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 法律のしくみ</li> <li>2) 健康を支える制度<br/>関係法規、公衆衛生、社会保障制度に関するラベルワーク</li> </ol> </li> <li>3. 豊中市の特徴</li> <li>4. 豊中市オリエンテーリング</li> <li>5. 豊中市オリエンテーリング</li> <li>6. 豊中市豊島地区の特性と互助活動の実際</li> <li>7. 地域活動「豊中市敬老のつどい」ボランティア活動</li> <li>8. 終講試験</li> </ol> |             |
| その他の授業の工夫         | アクティブラーニングを取り入れ学びを深める   |             |
| 時間外学修             | なし  |             |
| 評価方法と評価割合         | レポート3割 終講試験7割   |             |
| テキスト/参考書          | 各科目使用のテキスト (医学書院)   |             |
| 教員の実務経験           | 有・無   |             |
|                   | 内 容   | 看護師 ケアマネジャー |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 総合病院での訪問等、臨床経験や地域での福祉活動の経験を活かし、地域や制度へのイメージが高まるように体験学習を取り入れる。  |             |

|                |  |
|----------------|--|
| 科目名            | 公衆衛生   |
| 開講時期           | 1年後期   |
| 授業時間/授業回数      | 15時間/8回  |
| 担当者            | 加治木 みち   |
| 授業形態           | 講義   |
| 科目のねらい<br>到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>人間の健康を保持増進する社会、環境と健康のかかわりについて説明できる (DP1)</li> <li>公衆衛生の現状を知り、今日的保健対策の理解に努める。また、急速な少子高齢化社会に伴う医療、保健、福祉の問題、新興国の急速な発展に伴う環境問題 (大気・水質・土壌汚染・温暖化問題と放射線の基礎知識) と健康への影響、地域保健について説明できる (DP1)</li> </ol>   |
| 授業計画           | <ol style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生学的序論<br/>健康問題の変遷：公衆衛生と医療の歴史、健康測定と健康指標<br/>人口統計；世界と日本の人口の歴史、<br/>人口の静態統計・動態統計</li> <li>疫学；疫学の定義、方法、分類<br/>疾病予防；健康管理<br/>主な疾病；感染症、循環器疾患 (悪性新生物、心疾患、脳血管疾患)、メタボリック症候群など</li> <li>環境保健<br/>人間の環境；地球の生態系 (地圏・気圏・水圏・生物圏)<br/>環境汚染から地球環境問題へ<br/>廃棄物の問題、公害と環境問題</li> <li>地域保健<br/>地域保健活動、行政など<br/>母子保健<br/>母子保健統計、保健活動<br/>保健の現状と動向など<br/>学校保健<br/>子どもの健康状態、ライフスタイルの現状、学校保健管理など</li> <li>産業保健<br/>働く人々の健康と職業病<br/>職場の健康診断と健康増進</li> <li>高齢者保健・医療・介護<br/>高齢者の生活と健康、介護保険、歯科保健、特定疾患</li> <li>精神保健<br/>精神の健康とは、精神障害の現状と動向・現状と分類</li> <li>終講試験</li> </ol> |
| 学生へのメッセージ      | 我が国の保健統計を過去から現在と傾向を比較し、先進国、新興国との国際比較もしていただくこと。ニュース、新聞、TVなどの報道も見聞すること   |
| その他の授業の工夫      | なし   |
| 評価方法と評価割合      | 終講試験   |
| テキスト/参考書       | 公衆衛生 (医学書院) /国民衛生の動向 (厚生統計協会)  |
| 教員の実務経験        | (有)・無 保健師  |
| 実務経験をいかした教育内容  | 保健師としての経験を活かし、日本における公衆衛生の現状について授業する。   |

|                   |   |     |         |
|-------------------|---|-----|---------|
| 科目名               | 社会福祉  |     |         |
| 開講時期              | 1年後期  |     |         |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回  |     |         |
| 担当者               | 川崎 拓未   |     |         |
| 授業形態              | 講義  |     |         |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 社会福祉の概念を学び、人が地域社会で生活するためのサポートシステムと活動について説明できる（DP1・DP5）  |     |         |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 現代社会と社会福祉・社会保障</li> <li>3. 社会保障・社会福祉とは</li> <li>4. 社会福祉・社会保障の歴史、ひきこもりと8050問題</li> <li>5. 社会福祉の担い手と役割、社会福祉サービスの体系と提供組織</li> <li>6. 地域福祉の理念と定義、地域福祉計画、地域福祉推進の財源</li> <li>7. こどもの権利、子育て支援・少子化対策、母子保健施策</li> <li>8. 障害児・者と福祉、障害者総合支援法</li> <li>9. 高齢者保健福祉、介護保険、高齢者福祉の課題</li> <li>10. 公的扶助、生活保護の種類・範囲・方法、生活困窮者対策</li> <li>11. 年金制度のしくみ、医療保険のしくみ</li> <li>12. 介護保険のしくみ、雇用保険のしくみ、労災保険のしくみ</li> <li>13. 社会保険制度復習テスト・国家試験問題<br/>生活と福祉</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |     |         |
| その他の授業の工夫         | なし  |     |         |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験  |     |         |
| テキスト/参考書          | 社会保障・社会福祉（医学書院）   |     |         |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="checkbox"/> ・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">内 容</td> <td>精神保健福祉士</td> </tr> </table>  | 内 容 | 精神保健福祉士 |
| 内 容               | 精神保健福祉士   |     |         |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 精神保健福祉士、相談支援専門員としての経験を活かし、人が地域社会で生活するためのサポートシステムと活動の実際を授業する   |     |         |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 関係法規  |
| 開講時期              | 2年後期  |
| 授業時間/授業回数         | 15時間/8回   |
| 担当者               | 仁科 昌久   |
| 授業形態              | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師の職責を正しく遂行するために、関係法規の理解が必要であることを説明できる (DP1)</li> <li>2. 看護にとって重要な衛生法規、福祉法規について説明できる (DP1)</li> </ol>  |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係法規のイントロダクション、労働基準法①</li> <li>2. 労働基準法②、労働安全衛生法①</li> <li>3. 労働安全衛生法②、産業医、安全委員会、衛生委員会</li> <li>4. 安全衛生委員会、職業性悪性腫瘍の原因について</li> <li>5. 労働者災害補償保険法、男女雇用機会均等法、公害健康被害補償法</li> <li>6. 環境基本法、廃棄物処理法、感染症法、検疫法</li> <li>7. 上水道法、下水道法、食品衛生法、国際条約</li> <li>8. 終講試験</li> </ol> |
| その他の授業の工夫         | なし  |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験  |
| テキスト/参考書          | 看護関係法令 (医学書院)   |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無<br>内 容    医師   |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 労働衛生、環境などを含め、医療、看護に関係する法律について授業する   |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 科目名               | 看護概論   |
| 開講時期              | 1年前期   |
| 授業時間/授業回数         | 20時間/10回   |
| 担当者               | 石川 美佐子   |
| 授業形態              | 講義   |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本校の教育目的、教育目標に関連づけて看護概論を学ぶ意義と背景が説明できる。(DP1)</li> <li>2. 専門職について説明できる。(DP1)</li> <li>3. 看護の対象である人間の理解を深め、「生活」「暮らし」について説明できる。(DP1)</li> <li>4. 看護の対象である人間の理解を深め、「人間」について説明できる。(DP1)</li> <li>5. 看護の対象である人間の理解を深め、「環境」について説明できる。(DP1)</li> <li>6. 看護の対象である人間の理解を深め、「健康」について説明できる。(DP1)</li> <li>7. 看護観の確立のための基盤として、先人の看護論を説明できる。(DP1)</li> <li>8. 看護の変遷と日本の社会背景に関連づけて、これからの看護専門職としての役割について説明できる。(DP1)</li> </ol> |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護概論を学ぶ意義と背景</li> <li>2. 専門職とは何か</li> <li>3. 「生活」とは「暮らし」とは</li> <li>4. 「人間」とは</li> <li>5. 「環境」とは</li> <li>6. 「健康」とは</li> <li>7. 健康への取り組み</li> <li>8. 看護の基盤となる理論</li> <li>9. 看護の変遷と専門職としての役割</li> <li>10. 終講試験</li> </ol>   |
| その他の授業の工夫         | 自分の考えを表現できる機会を作る   |
| 時間外学修             | なし   |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 70% レポート 30%  |
| テキスト/参考書          | 看護概論（医学書院） 看護覚え書（現代社）キラリ看護（医学書院）<br>看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）  |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無<br>内 容 看護師 ケアマネジャー  |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 総合病院における整形外科、内科等の病棟勤務及訪問活動、地域福祉活動など幅広い臨床経験を活かし、看護学への導入、人間、環境、健康、看護の理解を広げる授業を行う   |

|                   |  |     |  |     |     |
|-------------------|--|-----|--|-----|-----|
| 科目名               | 技術概論   |     |  |     |     |
| 開講時期              | 1年前期   |     |  |     |     |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回   |     |  |     |     |
| 担当者               | 安部 由美子   |     |  |     |     |
| 授業形態              | 講義   |     |  |     |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <p>1.看護技術の概念と特徴を説明できる。(DP1)</p> <p>2.看護技術を適切に実践するための要素を説明できる。(DP1)</p> <p>3.看護技術に共通した原則を説明できる。(DP1)</p> <p>4.手指消毒や体位保持、罨法などの実践を通して、これらが安全や安楽確保のために必要な技術であることが説明できる。(DP1)</p> <p>5.看護技術の構造である基本動作を説明できる。(DP1)</p> <p>6.基本動作を実践する中で根拠やポイントを述べるができる(DP1)</p> <p>7.生活を支える技術、治療を受ける人を支える技術の考え方を述べるができる。(DP1・DP2・DP3・DP4)</p>  |     |  |     |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の概念</li> <li>2. 看護技術の特徴</li> <li>3. 看護技術を適切に表現するための要素</li> <li>4. 看護技術の共通した原則（安全）</li> <li>5. 手指消毒の演習</li> <li>6. 看護技術の共通した原則（安楽）</li> <li>7. 罨法の演習</li> <li>8. 体位変換の演習</li> <li>9. 看護技術を支える構造である基本動作</li> <li>10.ベッドメイキングの演習</li> <li>11.ベッドメイキングの演習</li> <li>12.看護技術演習について</li> <li>13.生活を支える技術、治療を受ける人を支える技術の考え方</li> <li>14.看護技術とは何かのまとめ</li> <li>15.終講試験</li> </ol> |     |  |     |     |
| その他の授業の工夫         | グループワーク、ディスカッション   |     |  |     |     |
| 時間外学修             | なし   |     |  |     |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 課題レポート  |     |  |     |     |
| テキスト/参考書          | 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院）・キラリ看護（医学書院）  |     |  |     |     |
| 教員の実務経験           | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">有・無</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">内 容</td> <td>看護師</td> </tr> </table>  | 有・無 |  | 内 容 | 看護師 |
| 有・無               |  |     |  |     |     |
| 内 容               | 看護師  |     |  |     |     |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 幅広い臨床経験を活かし、看護実践の基盤となる看護技術の特徴について授業を行う   |     |  |     |     |

|                   |  |     |
|-------------------|--|-----|
| 科目名               | 生活を支える技術   |     |
| 開講時期              | 1年   |     |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回   |     |
| 担当者               | 教員   |     |
| 授業形態              | 安部 由美子   |     |
| 到達目標              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活行動を理解し、生活を支える援助の必要性と方法について説明できる (DP1)</li> <li>2. 既習の知識・技術を活用し、対象に必要な生活援助を計画出来る (DP1)</li> <li>3. 対象の反応を見ながら安全に留意し、生活援助技術が実施できる (DP2)</li> <li>4. 対象の状況をふまえ、安楽さを追求する姿勢で取り組むことが出来る (DP2)</li> <li>5. 自分の看護実践を客観的に振り返り、課題を述べる事が出来る (DP4)</li> </ol>  |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「生活を支える援助」を行う上での必要な要素</li> <li>2. 快適な療養環境の整備</li> <li>3. 移動（移乗・移送）の援助</li> <li>4. 演習：移動（移乗・移送）</li> <li>5. 清潔の援助（洗髪）</li> <li>6. 演習：洗髪</li> <li>7. 演習：洗髪</li> <li>8. 演習：洗髪</li> <li>9. 清潔の援助（全身清拭）</li> <li>10. 演習：全身清拭</li> <li>11. 演習：全身清拭</li> <li>12. 演習：全身清拭</li> <li>13. 排泄の援助</li> <li>14. 食事の援助</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |     |
| その他の授業の工夫         | 演習 グループワーク   |     |
| 時間外学修             | なし   |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 技術試験 70点 筆記試験 30点   |     |
| テキスト/参考書          | 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）/看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）キラリ看護（医学書院）   |     |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無   |     |
|                   | 内容   | 看護師 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有・無   |     |
|                   | 内容   | 看護師 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 臨床経験を活かし、生活を支えるために必要となる対象の理解とアセスメントの視点を深める授業を行う  |     |

|                   |  |         |
|-------------------|--|---------|
| 科目名               | 治療を受ける人を支える技術  |         |
| 開講時期              | 1年   |         |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回   |         |
| 担当者               | 北浦 あい子   |         |
| 授業形態              | 講義・演習  |         |
| 到達目標              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 酸素投与器具の特徴をふまえ、安全に酸素投与ができる (DP1)</li> <li>2. 安楽な呼吸のための排痰ケアができる (DP1)</li> <li>3. 経皮、外用薬の特徴を説明できる (DP1)</li> <li>4. 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射、ホルダー採血がモデル人形に実施できる (DP1)</li> <li>5. 末梢静脈路確保中の観察がモデル人形に実施できる (DP1)</li> <li>6. 看護師の役割をふまえて与薬できる (DP1)</li> <li>7. 意思決定支援を実践しリフレクションすることで、治療を受ける人を支える技術のありかたについて述べるができる (DP5)</li> </ol>   |         |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習：検体の取り扱い</li> <li>2. 演習：スタンダードプリコーション・感染性廃棄物・器具の取り扱い</li> <li>3. 酸素療法、酸素投与器具の特徴と留意点</li> <li>4. 演習：呼吸を整える援助</li> <li>5. 演習：酸素療法の技術確認</li> <li>6. 演習：吸入・吸引の技術確認</li> <li>7. 外用薬の投与、経口薬の投与</li> <li>8. 外用薬の投与、経口薬の投与の実際</li> <li>9. 筋肉注射・皮下注射・静脈内注射・ホルダー採血</li> <li>10. 注射と採血の実際</li> <li>11. 演習：注射の技術確認</li> <li>12. 演習：採血の技術確認</li> <li>13. 演習：点滴中の看護</li> <li>14. 技術試験</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |         |
| その他の授業の工夫         | 講義・演習  |         |
| 評価方法と評価割合         | 技術課題 10点 終講試験 筆記試験 40点 技術試験 50点  |         |
| テキスト/参考書          | 基礎看護技術 I、基礎看護技術 II (医学書院)  |         |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有   | 無       |
|                   | 内 容  | 看護師     |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有   | 無       |
|                   | 内 容  | 看護師 助産師 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 特定機能病院での臨床経験を活かし、看護技術を教授する   |         |

|                   |   |     |
|-------------------|---|-----|
| 科目名               | 臨床看護総論  |     |
| 開講時期              | 1年  |     |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回  |     |
| 担当者               | 小林 愛  |     |
| 授業形態              | 講義・演習   |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康状態の経過に基づき、それぞれの経過の特徴や対象者のニーズ、看護援助を述べる (DP1)</li> <li>2. 主要症状の定義とメカニズムを理解し、看護ケアとその根拠が説明できる (DP1)</li> <li>3. 医療機器を使用する患者の看護を述べるができる (DP1)</li> </ol>   |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスアセスメントにおける視点</li> <li>2. バイタルサインズとは</li> <li>3. フィジカルアセスメントとは (問診、視診、聴診、打診法)</li> <li>4. 症状がある患者のフィジカルアセスメント (演習)</li> <li>5. 患者の薬剤管理 (毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤)</li> <li>6. 創傷処置、治癒過程 (創洗浄、創保護) 講義/演習</li> <li>7. 創傷処置、治癒過程 (創洗浄、創保護) 演習</li> <li>8. ドレーン類の挿入部の処置、感染徴候の理解</li> <li>9. ドレーン類を挿入中の患者の寝衣交換 (演習)</li> <li>10. 医療機器 (輸液ポンプ、シリンジポンプ)</li> <li>11. 医療機器 (酸素ボンベ、人工呼吸器)</li> <li>12. 医療機器と検査 (心電図モニター、除細動など)</li> <li>13. 放射線治療を受ける患者の看護 (放射性被爆防止策の実施)</li> <li>14. 人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策の実施</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |     |
| その他の授業の工夫         | 症状を示す事例を理解し必要となる看護技術を習得する   |     |
| 時間外学修             | なし  |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 筆記試験 70点 技術試験 30点  |     |
| テキスト/参考書          | なし  |     |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> ・無   |     |
|                   | 内 容   | 看護師 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> ・無   |     |
|                   | 内 容   | 看護師 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 総合病院における様々な病棟勤務にて幅広い臨床経験を活かし、主要症状のメカニズムを理解し、看護に活かせる授業を行う  |     |

|                   |   |     |
|-------------------|---|-----|
| 科目名               | 臨床看護展開論 1   |     |
| 開講時期              | 1 年前期   |     |
| 授業時間/授業回数         | 30 時間/15 回  |     |
| 担当者               | 安部 由美子  |     |
| 授業形態              | 講義・演習   |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を説明できる (DP 2・DP 3)</li> <li>2. 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション技術を実践できる (DP 2・DP 3)</li> <li>3. 看護過程の概念と構成要素を述べるができる (DP 1)</li> <li>4. 事例を用いて、看護上の問題を明確にし、問題を解決するための看護過程を展開する具体的な方法を実施することができる (DP 1)</li> </ol>   |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの意義と目的・看護におけるコミュニケーション</li> <li>2. コミュニケーションの構成要素、ミスコミュニケーション</li> <li>3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本</li> <li>4. 効果的なコミュニケーション技術</li> <li>5. 看護理論家のコミュニケーションの考え方、プロセスレコード</li> <li>6. コミュニケーション演習</li> <li>7. コミュニケーション演習</li> <li>8. 看護過程の概念、看護過程の構成要素</li> <li>9. ヘンダーソンの看護論 情報収集の方法</li> <li>10. アセスメント</li> <li>11. 事例患者の情報収集の実際</li> <li>12. 関連図 看護上の問題</li> <li>13. 看護計画立案</li> <li>14. 事例展開の復習 実施と評価</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |     |
| その他の授業の工夫         | 演習、事例展開により理解を深める  |     |
| 評価方法と評価割合         | 筆記試験 30 点 プロセスレコード 30 点 事例の展開 40 点  |     |
| テキスト/参考書          | 基礎看護技術 I (医学書院)   |     |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無  |     |
|                   | 内 容   | 看護師 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有・無  |     |
|                   | 内 容   | 看護師 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 精神科を中心とした病院に勤務し、臨床経験を活かした精神看護学を担当するとともに、看護の基本となる人間関係を幅広く理解し、対象理解を深める授業を行う   |     |

|                   |  |     |
|-------------------|--|-----|
| 科目名               | 臨床看護展開論 2  |     |
| 開講時期              | 2年   |     |
| 授業時間/授業回数         | 15時間/8回  |     |
| 担当者               | 小林 愛   |     |
| 授業形態              | 講義・演習  |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習の知識・技術を統合し、対象の状態に応じた看護を計画できる (DP1)</li> <li>2. 対象の状態に合わせ計画を変更することができる (DP1)</li> <li>3. 対象の状態に応じた看護実践ができる (DP1)</li> <li>4. 自己の看護実践のリフレクションができる (DP1)</li> <li>5. 判断を求められた時の自己の考え方の傾向性に気づき、課題を見出すことができる (DP4)</li> </ol> |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断能力とは 事例の提示</li> <li>2. 対象の理解</li> <li>3. 対象に応じた臨床判断</li> <li>4. 対象に応じた臨床判断</li> <li>5. 事例検討、看護計画の立案</li> <li>6. 模擬患者への看護の実践、演習</li> <li>7. リフレクション</li> <li>8. 終講試験</li> </ol>   |     |
| その他の授業の工夫         | 事例に対する理解を深め看護を実践する   |     |
| 時間外学修             | なし   |     |
| 評価方法と評価割合         | 対象理解 30点 (看護計画など)技術評価 30点<br>記述試験 40点  |     |
| テキスト/参考書          | なし   |     |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無   |     |
|                   | 内 容  | 看護師 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有・無   |     |
|                   | 内 容  | 看護師 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 総合病院など幅広いでの臨床経験を活かし、より臨床に近い場面を設定し実践力を養う内容とする   |     |

|                   |   |           |
|-------------------|---|-----------|
| 科目名               | 基礎看護学実習   |           |
| 開講時期              | 1年後期  |           |
| 授業時間/授業日数         | 90時間/10日  |           |
| 担当者               | 北浦あい子 専任教員  |           |
| 授業形態              | 実習  |           |
| 実習目的              | 病むことにより対象の身体や生活におこる変化を理解し、対象に必要とされる看護を実践する基礎的能力を養う  |           |
| 実習目標              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の個別的特徴と一般的特徴を対比して両者の違いを明確にし、個人の特徴を浮きぼりにするために必要となる学習ができる (DP5)</li> <li>2. 対象の変化をとらえ、成り行きを見立てながら学習を追加、深化させることができる (DP5)</li> <li>3. 対象に対する自らの話し方、態度についての振り返りができる (DP3)</li> <li>4. ヘンダーソンの理論や各種の理論を用いて、対象をとらえることができる (DP1)</li> <li>5. 生活行動のニーズをとらえ、対象に必要とされる看護は何かを説明できる (DP1)</li> <li>6. 病む前の対象について語ることができる (DP2)</li> <li>7. 顕在的な問題に対し対象の症状に応じた看護計画の立案ができる (DP1)</li> <li>8. 援助計画を安全・安楽に実施することができる (DP1)</li> <li>9. 実施した内容および観察した内容を報告できる (DP3)</li> <li>10. 実施した内容および観察した内容を記録できる (DP1)</li> <li>11. 実施した援助を評価できる (DP1)</li> <li>12. 受け持ち患者や家族、指導者に対し、適切な言葉遣いや適切な態度がとれる (DP3)</li> <li>13. 医療スタッフとコミュニケーションがとれる (DP5)</li> <li>14. 感染防止の目的と根拠を理解し、適切な方法で実施できる (DP1)</li> <li>15. 自己の姿勢・態度を振り返り、今後の学習課題を記述できる (DP4)</li> </ol> |           |
| 評価方法と評価割合         | 実習要項 参照   |           |
| テキスト/参考書          | 基礎看護学 実習要項  |           |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> ・無   |           |
|                   | 内容  | 看護師       |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> ・無   |           |
|                   | 内容  | 看護師 実習指導者 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 臨床経験豊富な教員により看護を実践する基礎的能力を養うための授業を行う   |           |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 地域・在宅看護論総論 1  |
| 開講時期              | 1 年前期   |
| 授業時間/授業回数         | 30 時間/15 回  |
| 担当者               | 石川 美佐子  |
| 授業形態              | 講義・演習   |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護論を学ぶ背景が説明できる (DP1)</li> <li>2. 地域包括支援システムが必要とされる背景が説明できる (DP1)</li> <li>3. 在宅看護の位置づけが説明できる (DP1・DP4)</li> <li>4. 日本の在宅看護に特有の問題を倫理的思考や概念を用いて整理し、説明できる (DP1・DP2)</li> <li>5. 地域で行われる活動に参加し地域とチームケアの意義が述べられる (DP1・DP2・DP3・DP4・DP5)</li> <li>6. 在宅看護の特徴と訪問看護の役割が述べられる (DP2・DP5)</li> </ol>  |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護論を学ぶ意義 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人々の暮らしと地域・在宅看護</li> <li>2) 暮らしの基盤としての地域の理解</li> </ol> </li> <li>2.3. 在宅看護の対象者と地域包括ケアシステム <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域・在宅看護の対象</li> <li>2) 在宅看護の位置づけ</li> </ol> </li> <li>4.5.6 日本の在宅看護の特徴と特有の問題 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) テーマに応じたディベートの実践</li> <li>2) ディベートから考える日本の在宅看護の特徴と特有の問題</li> </ol> </li> <li>7.8. 地域で行われる活動の実際とチームケアの意義 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域で行われる活動としての千里メディカルラリー参加のねらいとチームケアの意義</li> <li>2) 看護専門職としての基礎知識</li> </ol> </li> <li>9.10. 地域で行われる活動の実際とチームケアの意義 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 千里メディカルラリーへの参加</li> </ol> </li> <li>11. 12. 地域で行われる活動の実際とチームケアの意義 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 千里メディカルラリーを通しての学びをまとめる</li> <li>2) 学びの共有</li> </ol> </li> <li>13. 訪問看護の展開から考える在宅看護の特徴と訪問看護の役割 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児在宅看護</li> </ol> </li> <li>14. 訪問看護の展開から考える在宅看護の特徴と訪問看護の役割 <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 終末期在宅看護</li> </ol> </li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |
| その他の授業の工夫         | アクティブラーニングを取り入れ学びを深める   |
| 時間外学修             | なし  |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 70 点 レポート 30 点   |
| テキスト/参考書          | 地域・在宅看護論 1, 2 (医学書院) / 国民衛生の動向 (厚生統計協会) 等   |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無<br>内容    看護師 ケアマネジャー   |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 総合病院での訪問等、臨床経験や地域での福祉活動の経験を活かし、地域で療養生活をおくる人とその家族の生活を支えるための看護師の機能と役割、連携について体験を通して授業する。   |

|                   |   |             |
|-------------------|---|-------------|
| 科目名               | 地域・在宅看護論総論 2  |             |
| 開講時期              | 1 年後期   |             |
| 授業時間/授業回数         | 15 時間/ 8 回  |             |
| 担当者               | 河井 眞知子  |             |
| 授業形態              | 講義・演習   |             |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 1. 地域での暮らしにおけるリスクが述べられる (DP 1)<br>2. 地域・在宅看護実践の場と連携が述べられる (DP1・DP3)<br>3. 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用を述べるができる (DP1)<br>4. 在宅療養者の権利保障が述べられる (DP 1・DP2)                 |             |
| 授業計画              | 1. 地域での暮らしにおけるリスクの理解<br>2. 地域・在宅看護実践の場と連携<br>3. 地域・在宅看護にかかわる法令・制度とその活用<br>4.5.6. 地域・在宅ケアマネジメント<br>1) ケアマネジメント<br>2) アドバンスケアプランニングの支援<br>7. 訪問看護の制度<br>8. 終講試験 |             |
| その他の授業の工夫         | なし  |             |
| 時間外学修             | なし  |             |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験 90 点 レポート 10 点   |             |
| テキスト/参考書          | 地域・在宅看護論 1, 2 (医学書院)  |             |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有  |             |
|                   | 内 容   | 看護師 ケアマネジャー |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 総合病院での臨床経験、ケアマネジャーとしての経験を活かし、地域で療養生活をおくる人とその家族の生活を支えるための社会資源の活用<br>の実際と連携・協働について授業する  |             |

|                |   |     |             |
|----------------|---|-----|-------------|
| 科目名            | 地域・在宅看護方法論  |     |             |
| 開講時期           | 2年前期  |     |             |
| 授業時間/授業回数      | 15時間/8回   |     |             |
| 担当者            | 石川 美佐子  |     |             |
| 授業形態           | 講義・演習   |     |             |
| 科目のねらい<br>到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で療養生活を送る対象の特徴が説明できる (DP1)</li> <li>2. 居宅訪問の意義と訪問時の心構えが説明できる (DP3)</li> <li>3. 事例に応じたアセスメントの視点を説明できる (DP1)</li> <li>4. 療養者と家族との円滑な人間関係を図る方法を説明できる (DP2・DP3)</li> <li>5. 訪問看護に必要な技術を身に付けることができる (DP1・DP2・DP3・DP4・DP5)</li> <li>6. 在宅看護の特徴と訪問看護の役割を説明できる (DP1・DP5)</li> </ol>        |     |             |
| 授業計画           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で療養生活を送る対象の特徴</li> <li>2. 居宅訪問の意義と訪問時の心構え</li> <li>3. 訪問看護の特徴的な事例のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> <li>1) COPDの療養者の理解</li> <li>2) アセスメントの視点</li> </ol> </li> <li>4. 事例の取り巻く環境と強みを活かした支援の検討</li> <li>5.6. 訪問看護の実践</li> <li>7. 在宅看護の特徴と訪問看護の役割</li> <li>8. 終講試験</li> </ol> |     |             |
| その他の授業の工夫      | 事例に対して看護者の視点を深める訪問看護演習を行うことで実践力を高める   |     |             |
| 時間外学修          | なし  |     |             |
| 評価方法と評価割合      | 終講試験 70点 レポート 30点   |     |             |
| テキスト/参考書       | 地域・在宅看護論 1, 2 (医学書院)、基礎看護技術II (医学書院)、成人看護学呼吸器疾患 (医学書院) /その他資料   |     |             |
| 教員の実務経験        | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">内 容</td> <td>看護師 ケアマネジャー</td> </tr> </table>  | 内 容 | 看護師 ケアマネジャー |
| 内 容            | 看護師 ケアマネジャー   |     |             |
| 実務経験をいかした教育内容  | 総合病院での臨床経験と訪問等、臨床経験や地域での福祉活動の経験を活かし、地域で療養生活をおくる人とその家族の生活を支えるための看護師の機能と役割、連携について演習を通して授業する   |     |             |

|                   |   |                 |  |
|-------------------|---|-----------------|--|
| 科目名               | 地域・在宅看護実践論 1  |                 |  |
| 開講時期              | 1 年後期   |                 |  |
| 授業時間/授業回数         | 20 時間/10 回  |                 |  |
| 担当者               | 河井 真知子  |                 |  |
| 授業形態              | 講義・演習   |                 |  |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 1. 在宅看護における生活の援助が実践できる (DP 1・DP4・DP5)<br>2. 在宅看護における医療処置管理の支援・看護が実践できる (DP1)  |                 |  |
| 授業計画              | 1.在宅における医療処置管理の支援・看護<br>1) 在宅酸素療法 2) 在宅人工呼吸療法<br>3) 経管栄養 4) 在宅中心静脈栄養法 5) ペグ   |                 |  |
|                   | 2.在宅における医療処置管理の支援・看護<br>6) 褥瘡の予防とケア   |                 |  |
|                   | 3.4 在宅における日常生活援助<br>1) 呼吸に関する在宅看護技術<br>・呼吸のアセスメント<br>・人工呼吸器   |                 |  |
|                   | 5.在宅における日常生活援助<br>1) 呼吸に関する在宅看護技術<br>・スクイジングの技術<br>2) 嚥下に関する在宅看護技術<br>・食のアセスメント<br>・嚥下 ・食事<br>・栄養食品の説明、種類・形状の確認、試食、社会資源の選び方 |                 |  |
|                   | 6.7.在宅における日常生活援助<br>3) 清潔に関する在宅看護技術<br>・清潔のアセスメント<br>・入浴介助 ・足浴、手浴 ・洗髪 ・爪切り<br>4) 排泄に関する在宅援助技術<br>・排泄のアセスメント<br>・浣腸 ・摘便      |                 |  |
|                   | 8.ケアマネジメントの実際 その1   |                 |  |
|                   | 9.ケアマネジメントの実際 その2   |                 |  |
|                   | 10. 終講試験  |                 |  |
|                   | その他の授業の工夫   | 演習を行いながら実践力を高める |  |
|                   | 時間外学修   | なし              |  |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験  |                 |  |
| テキスト/参考書          | 地域・在宅看護論 1, 2 (医学書院)・基礎看護技術 II (医学書院)・老年看護学 (医学書院)  |                 |  |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無  |                 |  |
|                   | 内 容   | 看護師 ケアマネジャー     |  |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有・無  |                 |  |
|                   | 内 容   | 看護師             |  |
| 実務経験をいかした教育内容     | 総合病院での臨床経験、ケアマネジャーとしての経験を活かし、在宅看護における日常生活の援助、医療処置管理の支援・看護について授業する。  |                 |  |

|                       |   |                   |
|-----------------------|---|-------------------|
| 科目名                   | 地域・在宅看護実践論 2  |                   |
| 開講時期                  | 2 年前期   |                   |
| 授業時間/授業回数             | 30 時間/15 回  |                   |
| 担当者                   | 藤井 村角 中村 石原 杉本 中島 石川  |                   |
| 授業形態                  | 講義・演習   |                   |
| 科目のねらい<br>到達目標        | 1. 対象が求める訪問看護師の姿勢・態度を述べることができる (DP1)<br>2. 訪問看護に必要な実践力を述べるができる (DP 1)<br>3. 地域で暮らす療養者と医療をつなげる支援について述べるができる (DP1・DP5)<br>4. 地域における包括的支援の実際を説明することができる (DP1・DP5)<br>5. 実習にあたって地域で暮らす人々を支える看護者の倫理を説明することができる (DP 1・DP4・DP 5) |                   |
| 授業計画                  | 1. 看護師の姿勢   | 藤井                |
|                       | 2. 訪問看護の実践  | 村角                |
|                       | 3. 訪問看護の実践  | 中村                |
|                       | 4. 訪問看護の実践  | 中村                |
|                       | 5. 訪問看護の実践  | 中村                |
|                       | 6. 地域で暮らす療養者と医療をつなげる支援<br>1) 病院と地域の連携   | 杉本                |
|                       | 7. 2) 精神科デイケア   | 石原                |
|                       | 8. 地域における包括的支援<br>1) 住民参加による保健・医療・福祉の連携   | 中島                |
|                       | 9. 2) 地域包括支援センターの仕組み・役割・機能  | 中島                |
|                       | 10. 3) 地域包括支援センターの仕組み・役割・機能   | 中島                |
|                       | 11. 地域で暮らす人々を支える看護者の倫理  | 教員                |
|                       | 12. 実習を進めるにあたっての専門職としての姿勢   | 教員                |
|                       | 13. 1) 実習を進めるにあたっての専門職としての姿勢  | 教員                |
|                       | 14. 2) まとめ  | 教員                |
|                       | 15. 終講試験  |                   |
| その他の授業の工夫             | 地域で暮らすことを支える専門職の理解と連携を学べる工夫をする  |                   |
| 時間外学修                 | なし  |                   |
| 評価方法と評価割合             | 終講試験  |                   |
| テキスト/参考書              | 地域・在宅看護論 (医学書院) その他資料   |                   |
| 教員の実務経験               | 有・無   |                   |
|                       | 内 容   | 看護師 精神保健福祉士 作業療法士 |
| 教員以外で指導に関<br>わる者の実務経験 | 有・無   |                   |
|                       | 内 容   | 訪問看護 地域包括支援センター   |
| 実務経験をいかした<br>教育内容     | 地域での暮らしを支えるために他職種が連携協働する中での看護師の役割が理解できるようにそれぞれの専門職の活動の実際を含め講義を行う。   |                   |

|                   |   |                               |
|-------------------|---|-------------------------------|
| 科目名               | 地域で暮らす人を支える看護実践実習   |                               |
| 開講時期              | 2年  |                               |
| 授業時間/授業回数         | 90時間/10日  |                               |
| 担当者               | 森元 茜 専任教員   |                               |
| 授業形態              | 実習  |                               |
| 実習目的              | 地域で暮らす人々とその家族を理解し、実際の活動から多職種と連携協働する看護の役割と専門性をとらえ、看護を実践できる基礎的能力を養う   |                               |
| 実習目標              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で暮らす対象の特徴を説明できる (DP1)</li> <li>2. 地域で暮らす対象のニーズを述べられる (DP2・DP3)</li> <li>3. 対象の健康状態が家族や生活に与える影響を説明できる (DP1)</li> <li>4. 地域で暮らす対象を支える保健・医療・福祉チームの各職種の役割を説明できる (DP1)</li> <li>5. 地域包括ケアシステムの支援の実際を説明できる (DP1)</li> <li>6. 地域で暮らす対象を支える保健・医療・福祉チームの連携・協働した自助・互助・共助・公助の切れ目ない支援を説明できる (DP5)</li> <li>7. 地域で暮らす対象を支える保健・医療・福祉チームにおける看護師の果たす役割を説明できる (DP2・DP5)</li> <li>8. 在宅看護の特徴と訪問看護の役割を説明できる (DP1・DP2・DP3・DP5)</li> <li>9. 専門職業人として発展的な意見交換ができる (DP4)</li> <li>10. 看護職の倫理綱領をふまえた姿勢や態度、行動がとれる (DP4・DP5)</li> </ol> |                               |
| 評価方法と評価割合         | 実習  |                               |
| テキスト/参考書          | 地域・在宅看護論 1, 2 実習要項  |                               |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br>内 容   | 看護師 保健師                       |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br>内 容   | 看護師 保健師 ケアマネジャー 精神保健福祉士 社会福祉士 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 総合病院での臨床経験、保健師としての経験を活かし、地域で療養生活をおくる人とその家族の生活を支えるための社会資源の活用の実際と連携・協働について授業する。   |                               |

|               |   |     |         |
|---------------|---|-----|---------|
| 科目名           | 成人看護学総論   |     |         |
| 開講時期          | 1年  |     |         |
| 授業時間/授業回数     | 30時間/15回  |     |         |
| 担当者           | 森元 茜  |     |         |
| 授業形態          | 講義・演習   |     |         |
| 到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象の特徴と生活について述べるができる (DP1)</li> <li>2. 成人保健の動向と対策を説明できる (DP1)</li> <li>3. 成人期にある対象の健康へのニーズを説明できる (DP1)</li> <li>4. 成人期にある対象への健康教育ができる (DP1)</li> </ol>   |     |         |
| 授業計画          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある人の理解</li> <li>2. 成人の生活環境と生活の特徴</li> <li>3. 成人学習の特徴</li> <li>4. ヘルスプロモーションと看護</li> <li>5. 生活習慣に関連する健康問題</li> <li>6. ワーク・ライフ・バランスと健康問題</li> <li>7. 健康教育演習</li> <li>8. 健康教育演習</li> <li>9. 健康教育演習</li> <li>10. 健康教育演習</li> <li>11. 健康教育演習</li> <li>12. 健康教育演習</li> <li>13. 健康教育演習</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |     |         |
| その他の授業の工夫     | 検証、教育活動、グループワークにより学びを深める  |     |         |
| 時間外学修         | なし  |     |         |
| 評価方法と評価割合     | 終講試験 80点 評価表 20点  |     |         |
| テキスト/参考書      | 成人看護学総論 (医学書院)  |     |         |
| 教員の実務経験       | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">内 容</td> <td>看護師 保健師</td> </tr> </table>  | 内 容 | 看護師 保健師 |
| 内 容           | 看護師 保健師   |     |         |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保健師としての豊富な経験を活かし、成人期にある対象の特徴と生活や成人保健の動向と対策について授業を行う   |     |         |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | 成人看護方法論  |
| 開講時期          | 1年前期   |
| 授業時間/授業回数     | 30時間/15回   |
| 担当者           | 青木 由美子   |
| 授業形態          | 講義・演習  |
| 到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康レベルに応じた看護の方法について説明できる (DP1)</li> <li>2. 生命の危機状態にある対象の特徴と必要な看護について述べるができる (DP1)</li> <li>3. 慢性期にある対象の特徴とセルフマネジメントについて述べるができる (DP1)</li> <li>4. 回復期にある対象の特徴と必要な看護について述べるができる (DP1)</li> <li>5. 終末期にある対象の特徴と必要な看護について述べるができる (DP1)</li> </ol>   |
| 授業計画          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期とは、手術侵襲と生体反応、術前の看護</li> <li>2. 手術当日の看護、手術室の環境、麻酔の種類と術中の看護</li> <li>3. 術後の Moore の回復過程とサードスペース、主な術後合症</li> <li>4. ドレーン管理と創傷治癒過程</li> <li>5. 開腹術・腹腔鏡下手術を受ける患者の看護</li> <li>6. 急性期の看護 救急患者の状況と家族の状況、観察の方法や看護</li> <li>7. 慢性期にある患者の特徴と慢性期の理論</li> <li>8. 慢性期疾患を抱える患者の看護 (糖尿病)</li> <li>9. 糖尿病の事例でイメージ化学習 (個人思考) 食事指導を中心に</li> <li>10. 糖尿病の事例でイメージ化学習 (TBL)</li> <li>11. グループ発表</li> <li>12. 回復期にある患者の特徴と看護</li> <li>13. 血液透析、腹膜透析を受ける患者の看護</li> <li>14. 終末期にある患者の特徴と看護</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |
| その他の授業の工夫     | なし   |
| 時間外学修         | なし   |
| 評価方法と評価割合     | 終講試験   |
| テキスト/参考書      | 成人看護学概論 (メディカ出版)、臨床外科総論 (医学書院)、成人看護学 [6] 内分泌・代謝 (医学書院)、成人看護学 [8] 腎・泌尿器 (医学書院)、その他資料  |
| 教員の実務経験       | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無<br>内 容    看護師   |
| 実務経験をいかした教育内容 | 病院での豊富な臨床経験を活かし、成人期にある対象の特徴をふまえて、様々な健康障害における治療に伴う症状や苦痛の緩和、自立に向けた看護について授業を行う  |

|               |   |     |
|---------------|---|-----|
| 科目名           | 成人看護実践論   |     |
| 開講時期          | 1 年後期   |     |
| 授業時間/授業回数     | 30 時間/15 回  |     |
| 担当者           | 松田 静・村松宏美・森元茜・北浦あい子   |     |
| 授業形態          | 講義・演習   |     |
| 到達目標          | 1. がん患者と家族の抱える問題について説明できる (DP1)<br>2. がん患者の QOL を保つための治療法と看護の役割を述べるができる (DP1)<br>3. 脳機能障害のある患者の生活の再構築に向けた看護について述べる<br>ことができる (DP1)<br>4. 循環機能障害のある患者の看護について説明できる (DP1)<br>5. 消化・吸収障害のある患者の看護について説明できる (DP1) |     |
| 授業計画          | 1.トータルペイン、患者様・ご家族の苦痛を考えたケア  | 松田  |
|               | 2.苦痛の緩和   | 松田  |
|               | 3.がん患者の看護のポイント、苦痛の緩和  | 松田  |
|               | 4.事例紹介、グループワーク  | 松田  |
|               | 5.せん妄の患者への看護  | 松田  |
|               | 6.脳機能障害のある対象の理解<br>ICF、リハビリテーションの対象者、廃用症候群とは  | 村松  |
|               | 7.廃用症候群   | 村松  |
|               | 8.高次機能障害 (失語症など)  | 村松  |
|               | 9.高次機能障害 (失行・注意障害・失認など)   | 村松  |
|               | 10.食べる(嚥下)、排泄(排尿・排便) 障害受容   | 村松  |
|               | 11.循環機能障害のある患者の理解・不整脈を読む  | 森元  |
|               | 12.不整脈を読む・12 誘導心電図をとる   | 森元  |
|               | 13.消化吸収機能障害のある対象の理解   | 北浦  |
|               | 14.人工肛門造設患者の看護  | 北浦  |
|               | 15.終講試験   | 北浦  |
| その他の授業の工夫     | グループワーク   |     |
| 時間外学修         | なし  |     |
| 評価方法と評価割合     | 目標 1.2 30 点 目標 3 30 点 目標 4.5 40 点   |     |
| テキスト/参考書      | がん看護学(医学書院) 成人看護学〔7〕脳神経 (医学書院)<br>成人看護学〔3〕循環器 (医学書院) 成人看護学〔5〕消化器 (医学書院)   |     |
| 教員の実務経験       | 有・無   |     |
|               | 内容  | 看護師 |
| 実務経験をいかした教育内容 | それぞれの臨床経験をふまえ、事例を用いて具体的な授業を行う   |     |

|                   |   |           |
|-------------------|---|-----------|
| 科目名               | 健康レベルに応じた看護実践実習   |           |
| 開講時期              | 2年  |           |
| 授業時間/授業日数         | 90時間/10日  |           |
| 担当者               | 青木由美子 専任教員  |           |
| 授業形態              | 実習  |           |
| 実習目的              | 対象および家族を統合的に理解し、対象の健康レベルに応じた看護を実践する能力を養う  |           |
| 実習目標              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の病態生理・治療・検査・合併症について学習できる (DP1)</li> <li>2. 対象の健康レベル、現在に至るまでの疾患の経過について説明できる (DP1)</li> <li>3. 対象の発達段階、健康障害などを含めた意図的な情報収集ができる (DP1)</li> <li>4. 対象の情報を関連・統合させて身体的・心理的・社会的側面から図示できる (DP1・DP2)</li> <li>5. 対象の健康レベルに応じた看護上の問題点を抽出できる (DP1)</li> <li>6. 対象の健康レベルに応じた看護計画が立案できる (DP1)</li> <li>7. 対象の健康レベル、個別性に応じて必要な看護を実践できる (DP1)</li> <li>8. 実施した看護を振り返り、追加修正を加えた看護展開ができる (DP1・DP2・DP3)</li> <li>9. 対象を取り巻く多職種の連携の必要性を説明できる (DP5)</li> <li>10. 看護職に求められる倫理的配慮に基づいて行動できる (DP4・DP5)</li> </ol> |           |
| 評価方法と評価割合         | 実習要項 参照   |           |
| テキスト/参考書          | 成人看護学 実習要項  |           |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無  |           |
|                   | 内 容   |           |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有・無  |           |
|                   | 内 容   | 看護師 実習指導者 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 豊富な臨床経験を活かし、成人期にある対象の健康レベルやライフサイクルの視点から健康上の課題について授業する   |           |

|                   |   |       |  |     |     |
|-------------------|---|-------|--|-----|-----|
| 科目名               | 老年看護学総論   |       |  |     |     |
| 開講時期              | 1年前期  |       |  |     |     |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回  |       |  |     |     |
| 担当者               | 福田 恵子   |       |  |     |     |
| 授業形態              | 講義・演習   |       |  |     |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期を生活している人々の特徴を説明できる。(DP1)</li> <li>2. 高齢者が生きてきた時代を知り、高齢者観を述べるができる(DP1・DP2)</li> <li>3. 加齢に伴う変化を生活機能の視点から理解し、老年期の生活を支える看護を説明できる(DP1)</li> </ol>  |       |  |     |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老いを生きるということ 老年期の発達課題</li> <li>2. 老年期看護における理論</li> <li>3. 加齢に伴う身体機能の変化</li> <li>4. 加齢に伴う身体機能の変化</li> <li>5. 加齢に伴う身体機能の変化</li> <li>6. 高齢者疑似体験のイメージ化</li> <li>7. 高齢者疑似体験のイメージ化</li> <li>8. 高齢者疑似体験 演習</li> <li>9. 高齢者疑似体験 まとめ</li> <li>10. 老年期における心理・社会的変化の影響</li> <li>11. 老年期における心理・社会的変化の影響</li> <li>12. 老年期における心理・社会的変化の影響</li> <li>13. 老年期における心理・社会的変化の影響</li> <li>14. 老年期看護の役割と課題</li> <li>15. 老年期看護の役割と課題</li> </ol> |       |  |     |     |
| その他の授業の工夫         | なし  |       |  |     |     |
| 時間外学修             | なし  |       |  |     |     |
| 評価方法と評価割合         | 課題レポート  |       |  |     |     |
| テキスト/参考書          | 老年看護学(医学書院)   |       |  |     |     |
| 教員の実務経験           | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">(有)・無</td> <td style="width: 70%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">内 容</td> <td style="text-align: center;">看護師</td> </tr> </table>  | (有)・無 |  | 内 容 | 看護師 |
| (有)・無             |   |       |  |     |     |
| 内 容               | 看護師   |       |  |     |     |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、老年期の特徴を授業する  |       |  |     |     |

|                   |  |                |
|-------------------|--|----------------|
| 科目名               | 老年看護方法論  |                |
| 開講時期              | 2年前期   |                |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回   |                |
| 担当者               | 山岸 信之 高松 亜季子 教員  |                |
| 授業形態              | 講義   |                |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 1. 老年期に発症しやすい認知機能の障害について説明できる (DP1)<br>2. 高齢者に特徴的な疾患の病態生理を加齢減少との関係でとらえ、症状や診断・治療、看護ケアの要点を説明できる (DP1・DP3)  |                |
| 授業計画              | 1.高齢者のうつ、せん妄<br>2.四大認知症<br>3.認知症の診断・治療・ケア  | 山岸<br>山岸<br>山岸 |
|                   | 4.認知症の病態・治療・看護<br>5.認知症の方とのコミュニケーション<br>6.認知症の方とのコミュニケーション、環境調整、ケアの実際  | 高松<br>高松<br>高松 |
|                   | 7.認知機能障害のある高齢者を支える看護演習   | 高松             |
|                   | 8.認知機能障害のある高齢者を支える看護演習<br>9.認知機能障害のある高齢者を支える看護演習<br>10.認知機能障害のある高齢者を支える看護演習<br>11.認知機能障害のある高齢者を支える看護演習<br>12.認知機能障害のある高齢者を支える看護演習<br>13.認知機能障害のある高齢者を支える看護演習<br>14.認知機能障害のある高齢者を支える看護演習<br>15.終講試験 | 教員             |
|                   |  |                |
| その他の授業の工夫         | なし   |                |
| 時間外学修             | なし   |                |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験   |                |
| テキスト/参考書          | 老年看護学 (医学書院)   |                |
| 教員の実務経験           | ①・無  |                |
|                   | 内 容  | 医師 看護師         |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 山岸：臨床経験を活かし、老年期に発症しやすい認知機能の障害と看護について授業する<br>高松：臨床経験とともに、認知症看護認定看護師の経験を活かし、認知症高齢者の看護を授業する   |                |

|                |  |                 |
|----------------|--|-----------------|
| 科目名            | 老年看護実践論  |                 |
| 開講時期           | 1年後期   |                 |
| 授業時間/授業回数      | 30時間/15回   |                 |
| 担当者            | 岡本 好弘 ・ 青木 由美子   |                 |
| 授業形態           | 講義・演習  |                 |
| 科目のねらい<br>到達目標 | 1. 高齢者の権利擁護について述べるができる (DP2)<br>2. 老年看護の特徴を説明することができる (DP1)<br>3. 高齢者の自立や社会生活の拡大を目指すための生活機能を整える援助について説明することができる (DP1)  |                 |
| 授業計画           | 1. 高齢者の権利擁護<br>・エイジズム、アドボカシー<br>2. 高齢者の身体拘束<br>・身体拘束で起こる問題<br>3. 高齢者虐待、権利擁護のための制度<br>4. 老年看護の特徴<br>5. 活動縮小による影響<br>・廃用症候群、フレイル、閉じこもり   | 岡本              |
|                | 6. 高齢者の食事・食生活の特徴と援助<br>7. 高齢者の排泄の特徴と援助<br>8. 高齢者の清潔と衣生活の特徴と援助<br>9. 高齢者の性<br>10. 演習 肺炎高齢者事例 援助計画立案<br>11. 演習 肺炎高齢者事例 援助計画立案<br>12. 演習 事例を基に陰部洗浄、オムツ交換、一時導尿、持続的導尿<br>13. 演習 事例を基に陰部洗浄、オムツ交換、一時導尿、持続的導尿<br>14. 演習 経管栄養、義歯の取り扱い<br>15. 終講試験 | 青木<br><br>岡本・青木 |
| その他の授業の工夫      | 事例を用いて演習を行い、高齢者の日常生活動作を考える   |                 |
| 評価方法と評価割合      | 終講試験 80点 課題レポート 20点  |                 |
| テキスト/参考書       | 老年看護学 (医学書院)   |                 |
| 教員の実務経験        | ①・無  |                 |
|                | 内 容  | 看護師             |
| 実務経験をいかした教育内容  | 総合病院での臨床経験を活かし、高齢者自立や社会生活の拡大を目指すための生活機能を整える看護を授業する   |                 |

|                   |  |           |
|-------------------|--|-----------|
| 科目名               | 認知機能障害のある患者の看護実践実習   |           |
| 開講時期              | 2年   |           |
| 授業時間/授業日数         | 90時間/10日   |           |
| 担当者               | 専任教員   |           |
| 授業形態              | 実習   |           |
| 実習目的              | 認知機能障害のある高齢者を長い人生の中で培った文化や価値観をもった人として尊重し、その人らしさが最大限発揮されるための援助ができる  |           |
| 実習目標              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の身体各機能、器官の加齢変化やこれまでの疾患の特徴から、患者に及ぼしている影響が説明できる (DP1)</li> <li>2. 患者の生活環境、生活史に関する情報から、その人の価値観、誇り、役割、生活習慣などを知り看護の糸口となるアセスメントができる (DP2)</li> <li>3. 患者の認知機能障害・中核症状がもたらすBPSDが説明できる<br/>(DP1)</li> <li>4. BPSDがおよぼす生活への影響 (できること・していること) が説明できる<br/>(DP1)</li> <li>5. 患者の困りごとや安心できる生活をするための看護の焦点 (こうなってほしい) を説明できる (DP1)</li> <li>6. 患者のもっている力を活かした生活をするための援助を計画できる (DP1)</li> <li>7. 患者の固有の価値観や生活様式、生活習慣、文化的背景を持った一人のかけがえのない人として尊重してかかわることができる<br/>(DP2)</li> <li>8. 日々の変化について観察することができる (DP1)</li> <li>9. 患者のできる力、強みを述べるることができる (DP3)</li> <li>10. 援助にあたっては、患者の「力」を活用しながら実施することができる (DP2)</li> <li>11. 自己の高齢者観を深め、看護実践を振り返り今後の課題を述べるることができる<br/>(DP4・DP5)</li> </ol> |           |
| 評価方法と評価割合         | 実習要項 参照  |           |
| テキスト/参考書          | 老年看護学 実習要項   |           |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br>内容   |           |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br>内容   | 看護師 実習指導者 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 豊富な臨床経験を活かし、老年期にある対象の生活機能のアセスメント、持てる力を最大限活用した援助について授業する  |           |

|                |   |
|----------------|---|
| 科目名            | 小児看護学総論   |
| 開講時期           | 1年後期  |
| 授業時間/授業回数      | 20時間/10回  |
| 担当者            | 谷口 明  |
| 授業形態           | 講義  |
| 科目のねらい<br>到達目標 | 健康を障害された子どもと家族を理解し、疾患の症状・検査・治療・処置について説明できる (DP1)  |
| 授業計画           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児生下時、出生前診断 (NIPT)、染色体異常 (ダウン症等)</li> <li>2. 新生児の疾患 (分娩損傷、新生児仮死、新生児黄疸、メレナ、GBS、RDS 等)</li> <li>3. 先天性代謝異常症 (新生児マススクリーニング検査、タンデムマ法) 糖尿病 (I型)、アセトン血性嘔吐症、内分泌疾患、食物アレルギー発症予防</li> <li>4. 気管支喘息、感染症 (ウイルスと細菌の違い)、突発性発疹、麻疹</li> <li>5. ウイルス感染症 (修飾麻疹、先天性風疹症候群、水痘・帯状疱疹、流行性耳下腺炎、単純ヘルペスウイルス、伝染性紅斑、手足口病、ヘルパンギーナ、インフルエンザ)</li> <li>6. 細菌感染症 (百日咳、4混ワクチン、ブドウ球菌感染症、溶連菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、細菌性腸炎)</li> <li>7. 胃腸炎、敗血症、髄膜炎、結核、上気道炎、下気道炎 (肺炎)、川崎病、先天性心疾患 (左右短絡、右左短絡)</li> <li>8. 心筋炎、O.D、舌小帯短縮症、幽門狭窄、腸重積、虫垂炎、過敏性腸炎、胆道閉鎖、HB 母子感染予防、鉄欠乏性貧血、球状赤血球、血友病 A・B、ITP、血管性紫斑病 (IgA 血管炎)</li> <li>9. てんかん、熱性ケイレン、白血病、リンパ腫、急性糸球体腎炎、IgA 腎炎、ネフローゼ症候群、起立性蛋白尿、尿路感染症</li> <li>10. 終講試験</li> </ol> |
| その他の授業の工夫      | てんかん発作のビデオを活用し、症状を真似て見せている  |
| 時間外学修          | なし  |
| 評価方法と評価割合      | 終講試験 70 点   |
| テキスト/参考書       | 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 (医学書院)   |
| 教員の実務経験        | <input checked="" type="checkbox"/> 有    無<br>内 容    医師 研修医の指導  |
| 実務経験をいかした教育内容  | 小児科医としての臨床経験を活かし、健康を障害された子どもと家族、疾患の症状・検査・治療・処置について授業する  |

|                |  |   |   |    |     |
|----------------|--|---|---|----|-----|
| 科目名            | 小児看護学総論  |   |   |    |     |
| 開講時期           | 1年後期   |   |   |    |     |
| 授業時間/授業回数      | 10時間/5回  |   |   |    |     |
| 担当者            | 市山 喜代美   |   |   |    |     |
| 授業形態           | 講義   |   |   |    |     |
| 科目のねらい<br>到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期にある対象の特徴を説明できる (DP1)</li> <li>2. 小児期の健康問題を説明できる (DP1)</li> <li>3. 小児保健の動向と対策を説明できる (DP1)</li> <li>4. 小児看護の役割と機能を説明できる (DP1)</li> </ol>  |   |   |    |     |
| 授業計画           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の対象：対象の年齢（第二次性徴の進行も含む）、子どもの特性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・成長発達途上の意味・発達段階に応じた援助とは</li> <li>・子どもと家族、取り巻く現代社会、成人看護との違い</li> <li>・小児看護の目標と役割</li> </ul> </li> <li>2. 小児と家族の諸統計（乳幼児突然死症候群とその予防・学校保健も含む）</li> <li>3. 小児看護の変遷</li> <li>4. 小児看護における倫理：「児童憲章」<br/>「子どもの権利に関する条約」<br/>「日常的な臨床場面での倫理的課題に関する行動指針」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療現場でおこりやすい問題点と看護（アドボカシーも含む）</li> <li>・医療・治療の選択・決定について（インフォームドアセント・プレパレーションも含む）</li> <li>・子どもへのケアについて（5つの倫理原則）</li> </ul> </li> <li>5. 1)小児看護の課題<br/>小児をめぐる法律と健康増進のための政策と社会制度：<br/>「児童福祉法」<br/>「児童虐待防止法」 ← 子どもの虐待と看護も含む<br/>「母子保健法」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・マス・スクリーニング検査</li> <li>・子育て支援施策</li> <li>・子どもの貧困への対策</li> <li>・子どもに関する各医療費助成</li> </ul> </li> </ol> <p>2)まとめ 終講試験</p> |   |   |    |     |
| その他の授業の工夫      | なし   |   |   |    |     |
| 時間外学修          | なし   |   |   |    |     |
| 評価方法と評価割合      | 終講試験 30点   |   |   |    |     |
| テキスト/参考書       | 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）   |   |   |    |     |
| 教員の実務経験        | <table border="1"> <tr> <td>有</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>看護師</td> </tr> </table>   | 有 | 無 | 内容 | 看護師 |
| 有              | 無  |   |   |    |     |
| 内容             | 看護師  |   |   |    |     |
| 実務経験をいかした教育内容  | 総合病院での内科、外科、小児科での経験を活かし、小児期にある対象の理解と看護を授業する  |   |   |    |     |

|                |  |
|----------------|--|
| 科目名            | 小児看護方法論  |
| 開講時期           | 2年前期   |
| 授業時間/授業回数      | 30時間/15回   |
| 担当者            | 市山 喜代美   |
| 授業形態           | 講義   |
| 科目のねらい<br>到達目標 | 1. 健康を障害された小児とその家族の特徴を説明できる (DP1)<br>2. 小児におこりやすい健康障害を理解し、小児および家族への看護の方法を説明できる (DP1)   |
| 授業計画           | 1. 成長・発達・発育とは、年齢、区分、領域、進み方の一般的原則、粗大・微細運動、各器官の発達の時期、臨界期、成熟と学習について、成長・発達に影響する因子<br>2. 成長の評価：正常な体重増加量、パーセントイル曲線の評価練習、学校健診でのパーセントイル曲線ほか形態的成長の評価<br>3. 発達の評価：知能・発達検査<br>4. 小児各期における成長・発達の特徴と看護形態、身体生理、感覚、運動、知的、コミュニケーション、情緒面、栄養（食育含む）<br>5. アタッチメント理論、ハーローの愛着実験、ピアジェ認知理論、エリクソン発達課題<br>6. 発達課題と関わり方、反抗期（第一・第二・中間）と関わり方<br>7. 情緒の分化、コミュニケーション機能の発達と関わり方<br>8. 子どもの病気と死の理解<br>9. 病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護<br>10. 予防接種<br>11. 「成長発達表」の総評と補足説明<br>12. 遊びの理論～具体編<br>13. 遊びの理論～具体編<br>14. 遊びの理論～具体編<br>15. 終講試験 |
| その他の授業の工夫      | 0～5歳までの成長発達（栄養を含む）表を各自で作成する  |
| 時間外学修          | なし   |
| 評価方法と評価割合      | 終講試験   |
| テキスト/参考書       | 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）<br>小児看護学〔2〕小児臨床看護各論（医学書院）   |
| 教員の実務経験        | <input checked="" type="checkbox"/> ・無   |
|                | 内 容 看護師  |
| 実務経験をいかした教育内容  | 小児病院での経験を活かし、健康を障害された小児とその家族の特徴と小児におこりやすい健康障害、小児および家族への看護の方法を授業する  |

|                   |   |     |     |
|-------------------|---|-----|-----|
| 科目名               | 小児看護実践論   |     |     |
| 開講時期              | 2年前期  |     |     |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回  |     |     |
| 担当者               | 小林 愛  |     |     |
| 授業形態              | 講義  |     |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | さまざまな状況にある小児と家族の特徴と看護の方法を説明できる<br>(DP1)   |     |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外来、在宅における子どもと家族の看護</li> <li>2. 入院中の子どもと家族の看護</li> <li>3. 急性症状にある子どもと家族への看護<br/>不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難</li> <li>4. 急性症状にある子どもと家族への看護<br/>痙攣、発熱、脱水</li> <li>5. 救急救命処置が必要な子どもと家族への看護<br/>事故・外傷と看護<br/>死亡原因の順位、子どもの事故の特徴、発達段階に応じた事故<br/>防止、不慮の事故総論 (PTSD 含む)、頭部外傷</li> <li>6. 救急救命処置が必要な子どもと家族への看護<br/>気道内異物、消化管異物、中毒、溺水、熱傷、熱中症、救命処<br/>置</li> <li>7. 周手術期における子どもと家族への看護<br/>小児期の手術の特徴、手術を受ける子どもの反応<br/>術前の看護 (プリパレーション他)、術後 (急性期、回復期)<br/>の看護</li> <li>8. 慢性期疾患・障害がある子どもと家族への看護</li> <li>9. 終末期にある子どもと家族への看護</li> <li>10. 災害を受けた子どもと家族への看護、最新の予防接種について</li> <li>11. 事例展開</li> <li>12. 事例展開</li> <li>13. 子どものバイタルサイン測定 (演習)</li> <li>14. 小児看護学実習について</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |     |     |
| その他の授業の工夫         | 演習  |     |     |
| 時間外学修             | なし  |     |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験  |     |     |
| テキスト/参考書          | 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 (医学書院)<br>小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 (医学書院)  |     |     |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="checkbox"/> ・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">内 容</td> <td>看護師</td> </tr> </table>  | 内 容 | 看護師 |
| 内 容               | 看護師   |     |     |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 病院での経験を活かし、さまざまな状況にある小児と家族の理解と<br>看護の方法を授業する  |     |     |

|                   |  |           |
|-------------------|--|-----------|
| 科目名               | 小児看護学実習  |           |
| 開講時期              | 2年   |           |
| 授業時間/授業日数         | 90時間/10日   |           |
| 担当者               | 小林 愛 専任教員  |           |
| 授業形態              | 実習   |           |
| 実習目的              | 成長発達途上にある子どもとその家族の相互作用を理解し、子どもとその家族に対する看護実践に必要な能力を養う   |           |
| 実習目標              | <p>保育所実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期にある対象の成長発達を説明できる (DP1)</li> <li>2. 成長発達に応じた日常生活の援助を実践できる (DP1)</li> <li>3. 子どもが健やかに育つための支援・教育・人と人との関わりの必要性を説明できる (DP2)</li> <li>4. 子どもの理解を促進するためのコミュニケーションの工夫ができる (DP3)</li> </ol> <p>病棟実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 入院、健康障害、治療が子どもとその家族に及ぼす影響を説明できる (DP1)</li> <li>6. 健康障害のある子どもの状態に応じた援助を説明できる (DP1)</li> <li>7. 健康上のニーズをとらえ、子どもの安全・安楽に留意した援助や関わりができる (DP1)</li> <li>8. 子どもとその家族の思いや考えを十分に聴き効果的なコミュニケーションを図る (DP3)</li> <li>9. 健康障害をもつ子どもとその家族のサポートシステムを知り、多職種とコミュニケーションがとれる (DP5)</li> <li>10. 子どもの育ちとその家族に必要と思われる知識・技術を主体的に学習しようとする (DP4)</li> <li>11. 子どもの最善の利益を保証する小児看護の役割について述べるができる (DP2)</li> <li>12. 感染防止の目的と根拠を理解し、適切な方法で実施できる (DP1)</li> </ol> |           |
| 評価方法と評価割合         | 実習要項 参照  |           |
| テキスト/参考書          | 小児看護学 実習要項   |           |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 無   |           |
|                   | 内 容  | 看護師       |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 無   |           |
|                   | 内 容  | 看護師 実習指導者 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 豊富な臨床経験を活かし、小児期にある対象の成長発達に応じた日常生活の援助について授業する   |           |

|                |   |     |
|----------------|---|-----|
| 科目名            | 母性看護学総論   |     |
| 開講時期           | 1年後期  |     |
| 授業時間/授業回数      | 15時間/8回   |     |
| 担当者            | 加治木 みち  |     |
| 授業形態           | 講義  |     |
| 科目のねらい<br>到達目標 | 1. 母性の概念、意義および母性の特徴について学び、母性看護の特性とあり方についての考えを述べることができる (DP1・DP2)<br>2. 母性看護の動向について説明できる (DP1)<br>3. 性と生殖に関する健康をもとに、次世代を育むために必要なことは何かを考え、述べるすることができる (DP1・DP2)   |     |
| 授業計画           | 1. 母性の概念<br>親になること 母子関係 母子相互作用<br>2. リプロダクティブヘルス ライツ<br>母性看護の実践を支える概念<br>3. 母性看護の歴史的変遷と現状<br>4. 母子保健統計からみた動向<br>対象をとりまく環境<br>5. 母性看護の対象理解<br>①女性のライフサイクル：性周期<br>②性分化のメカニズム・性意識の発達<br>6. 母子保健に関する組織と法律、母子保健施策<br>7. 女性のライフステージ各期における保健相談・健康教育<br>グループワーク<br>8. 女性のライフステージ各期における保健相談・健康教育<br>グループワーク発表<br>9. 母性看護における倫理<br>10. 終講試験 |     |
| その他の授業の工夫      | グループワーク   |     |
| 時間外学修          | なし  |     |
| 評価方法と評価割合      | 終講試験  |     |
| テキスト/参考書       | 母性看護学〔1〕母性看護学概論（医学書院）・母性看護学〔2〕母性看護学各論（医学書院）/国民衛生の動向（厚生統計協会）   |     |
| 教員の実務経験        | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無   |     |
|                | 内 容   | 保健師 |
| 実務経験をいかした教育内容  | 保健師としての臨床経験、母子保健活動を活かし、母性の特徴、母性看護学を取り巻く動向について授業する   |     |

|                   |   |     |
|-------------------|---|-----|
| 科目名               | 母性看護方法論   |     |
| 開講時期              | 2年前期  |     |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回  |     |
| 担当者               | 齊藤 眞智子  |     |
| 授業形態              | 講義  |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもを産み育てるにあたり生じる問題を理解し、母性看護を实践するうえで必要な倫理について考えたことを述べるができる (DP1・DP2)</li> <li>2. 産褥の生理的な経過とその診断、検査を理解し正常に経過するための援助方法が説明できる。(DP1)</li> <li>3. 新生児の生理的な経過とその診断、検査を理解し、正常に発育するための援助方法が説明できる。(DP1)</li> <li>4. 異常な経過をたどる妊産褥婦の看護が説明できる。(DP1)</li> </ol>   |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1章 子どもを産み育てることと、その看護を学ぶにあたって</li> <li>第2章 出生前からのリプロダクティスヘルスケア</li> <li>2. 第3章 妊娠期における看護</li> <li>3. 妊婦と胎児のアセスメント</li> <li>4. 妊婦と家族の看護</li> <li>5. 第4章 分娩期における看護</li> <li>6. 分娩の経過 産婦・胎児・家族のアセスメント</li> <li>7. 第5章 新生児における看護</li> <li>8. ハイリスク妊娠</li> <li>9. 妊娠の異常と看護</li> <li>10. 分娩の異常と看護、胎児の異常など</li> <li>11. 分娩の異常と看護、産科処置と手術、異常のある産婦の看護</li> <li>12. 新生児の異常と看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>A 新生児仮死</li> <li>B 分娩外傷</li> <li>C 低出生体重児</li> <li>D 高ビリルビン血症</li> </ol> </li> <li>13. 産褥期の異常と看護</li> <li>14. 精神障害合併妊婦の看護</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |     |
| その他の授業の工夫         | なし  |     |
| 時間外学修             | なし  |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験  |     |
| テキスト/参考書          | 母性看護学〔1〕母性看護学概論 (医学書院)<br>母性看護学〔2〕母性看護学各論 (医学書院)  |     |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> ・無   |     |
|                   | 内 容   | 助産師 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> ・無   |     |
|                   | 内 容   | 助産師 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 助産師としての臨床経験、母子保健活動を活かし母性看護の特徴と妊娠期、分娩期における看護について授業する   |     |

|                |  |
|----------------|--|
| 科目名            | 母性看護実践論  |
| 開講時期           | 2年前期   |
| 授業時間/授業回数      | 30時間/15回   |
| 担当者            | 石川 美佐子   |
| 授業形態           | 講義・演習  |
| 科目のねらい<br>到達目標 | 1. 妊娠・分娩の生理的な経過を理解し、正常に経過させるための援助方法を説明できる (DP1)<br>2. 妊婦・産婦の看護に必要な特有の技術が実施できる (DP1)  |
| 授業計画           | 1. 妊娠の生理と経過<br>・ロールプレイ<br>・腹囲、子宮底、レオポルド触診演習<br>2.3.分娩の生理と経過<br>1) 分娩各期の特徴と援助<br>2) 分娩に伴う胎児の生理と経過<br>4. 分娩の生理と経過<br>・ロールプレイ ・計画の追加修正<br>5. 分娩の生理と経過<br>3) 異常分娩の援助<br>6. 4) 新生児の出生直後の生理と経過<br>7.8.9産褥の生理と経過<br>1) 産褥期の特徴と援助<br>2) 家族関係再構築<br>10.11.新生児の生理と経過<br>12. 経時的な変化・母親の状態に相応した育児技術の獲得<br>・育児技術演習<br>13. 地域で生活する母子及び家庭の支援についての理解<br>14. 看護実践に向けたガイダンスと準備<br>15. 終講試験 |
| その他の授業の工夫      | グループワーク、演習、事例展開など工夫する  |
| 時間外学修          | なし   |
| 評価方法と評価割合      | 終講試験   |
| テキスト/参考書       | 母性看護学〔1〕母性看護学概論 (医学書院)<br>母性看護学〔2〕母性看護学各論 (医学書院)   |
| 教員の実務経験        | ①・無<br>内 容 看護師   |
| 実務経験をいかした教育内容  | 看護師としての臨床経験を活かし母性看護の特徴と妊娠期、分娩期における看護について授業する   |

|                   |  |               |
|-------------------|--|---------------|
| 科目名               | 次世代を育む看護実践実習   |               |
| 開講時期              | 2年   |               |
| 授業時間/授業日数         | 90時間/10日間  |               |
| 担当者               | 専任教員   |               |
| 授業形態              | 実習   |               |
| 実習目的              | 周産期にある母子とその家族の特徴を理解し、ウェルネスの視点で必要な援助と保健指導ができるよう基礎的能力を養う。  |               |
| 実習目標              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康な対象者に対し、コミュニケーションの工夫ができる (DP3)</li> <li>2. 妊娠期を健康に過ごし、出産・育児に向けた準備ができるための援助を説明できる (DP1)</li> <li>3. 産褥期の生理的変化と精神的変化を説明できる (DP1)</li> <li>4. 褥婦の健康な日常生活の維持と母子関係成立への援助を説明できる (DP1)</li> <li>5. 新生児の胎外生活適応への援助を説明できる (DP1)</li> <li>6. 地域で生活する母子および家族の支援について説明できる (DP5)</li> <li>7. 生命の誕生や子育て中の家族に関わり、自己の生命観、親役割、次世代の育成について学生自身の言葉で表現できる (DP2)</li> <li>8. 看護職の倫理綱領をふまえた姿勢や態度、行動がとれる (DP2)</li> <li>9. 母子の健康の増進を図り、安心して子育てするための必要と思われる知識・技術を主体的に学習する態度が見られる (DP4)</li> <li>10. 感染防止の目的と根拠を理解し、適切な方法で実施できる (DP1)</li> </ol> |               |
| 評価方法と評価割合         | 実習要項 参照  |               |
| テキスト/参考書          | 母性看護学 実習要項   |               |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> ・無  |               |
|                   | 内 容  | 看護師           |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> ・無  |               |
|                   | 内 容  | 助産師 看護師 実習指導者 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 豊富な臨床経験を活かし、子育て期にある対象のニーズに対応した支援、妊娠・分娩・産褥各期にある対象の特徴と看護、新生児の特徴と援助について授業する   |               |

|                   |   |     |  |     |     |
|-------------------|---|-----|--|-----|-----|
| 科目名               | 精神看護学総論   |     |  |     |     |
| 開講時期              | 1年後期  |     |  |     |     |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回  |     |  |     |     |
| 担当者               | 安部 由美子  |     |  |     |     |
| 授業形態              | 講義  |     |  |     |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護学の目的、対象、看護の機能と役割を説明できる (DP1)</li> <li>2. 心の発達と心の健康を理解し、心の健康を保持・増進するための看護について説明できる (DP1)</li> <li>3. 職業人としてのメンタルヘルスの必要性を理解し、方策を述べることができる (DP1)</li> </ol>  |     |  |     |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護学の考え方、心の健康</li> <li>2. 心の構造、心の機能、心の発達、防衛機制</li> <li>3. エリクソンの発達課題</li> <li>4. エリクソンの発達課題</li> <li>5. 危機理論；フィンク、コーン、キューブラロス</li> <li>6. アギュララ・メズイックの危機理論</li> <li>7. ストレス</li> <li>8. 学校・職場におけるメンタルヘルス</li> <li>9. 看護師のメンタルヘルス、ストレスマネジメント</li> <li>10. リエゾン看護、災害時のメンタルヘルス</li> <li>11. 精神保健福祉の歴史と看護</li> <li>12. 精神障害と法制度</li> <li>13. 権利擁護と看護者の倫理</li> <li>14. 権利擁護と看護者の倫理</li> <li>15. 終講試験</li> </ol> |     |  |     |     |
| その他の授業の工夫         | なし  |     |  |     |     |
| 時間外学修             | なし  |     |  |     |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験  |     |  |     |     |
| テキスト/参考書          | 精神看護の基礎 (医学書院)・精神看護の展開 (医学書院)   |     |  |     |     |
| 教員の実務経験           | <table border="1"> <tr> <td>有・無</td> <td></td> </tr> <tr> <td>内 容</td> <td>看護師</td> </tr> </table>  | 有・無 |  | 内 容 | 看護師 |
| 有・無               |   |     |  |     |     |
| 内 容               | 看護師   |     |  |     |     |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 精神科病院での臨床経験を活かし、精神看護学の目的、対象、看護の機能と役割について授業する  |     |  |     |     |

|                   |   |   |
|-------------------|---|---|
| 科目名               | 精神看護方法論   |   |
| 開講時期              | 2年前期  |   |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回  |   |
| 担当者               | 澤 滋 ・ 新海 大祐   |   |
| 授業形態              | 講義  |   |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 1. 精神保健、医療の現場を理解し、今後の精神医療のあり方を述べることができる (DP1)<br>2. 地域精神保健福祉活動について説明できる (DP1)<br>3. 精神に障害をもつ対象の精神症状や精神状態・検査・治療について説明できる (DP1)<br>4. 患者－看護師関係を治療的援助関係に発展させていく必要性を説明できる (DP2・DP3)   |   |
| 授業計画              | 1. 精神障害と治療の歴史、社会のなかの精神障害<br>2. 日本における精神医学・精神医療の流れ<br>3. 社会のなかの精神障害 精神障害と法制度<br>4. 地域におけるケアの方法と実際<br>5. 精神科で出会う人々<br>症状・疾患と病い<br>6. 統合失調症の症状・病型<br>7. 気分障害、神経症性障害、不安障害<br>8. 生理的障害、行動症候群、パーソナリティ障害、<br>器質性精神障害、認知症<br>9. 精神作用物質使用による精神および行動の障害、<br>てんかん、神経発達障害群<br>10. 精神科での薬物療法・電気けいれん療法、精神療法 | 澤<br>澤<br>澤<br>澤<br>澤<br>澤<br>澤<br>澤<br>澤 |
|                   | 11. 自己開示、偏見について<br>12. 入院治療の意味<br>13. コミュニケーションの実際・距離感について<br>14. 精神科看護の実際<br>15. 終講試験  | 新海<br>新海<br>新海<br>新海<br>澤・新海              |
| その他の授業の工夫         | なし  |   |
| 時間外学修             | なし  |   |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験  |   |
| テキスト/参考書          | 精神看護の基礎 (医学書院)・精神看護の展開 (医学書院)   |   |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有<br><input type="radio"/> 無   |   |
|                   | 内 容   | 医師 看護師                                    |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | ・精神科医としての臨床経験を活かし、精神に障害をもつ対象の精神症状や精神状態・検査・治療について授業する<br>・精神科病院での臨床経験を活かし精神に障害をもつ対象の看護の基本を授業する   |   |

|                   |  |     |     |
|-------------------|--|-----|-----|
| 科目名               | 精神看護実践論  |     |     |
| 開講時期              | 2年前期   |     |     |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回   |     |     |
| 担当者               | 安部 由美子   |     |     |
| 授業形態              | 講義・演習  |     |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 精神に障害をもつ対象とその家族に対する看護の方法を説明できる<br>(DP1)  |     |     |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.統合失調症の患者の症状アセスメント</li> <li>2.統合失調症の患者の精神状態・問題と援助方法</li> <li>3.統合失調症の急性期の看護</li> <li>4.統合失調症の慢性期の看護</li> <li>5.統合失調症の社会復帰期の看護</li> <li>6.気分障害の患者の症状アセスメント</li> <li>7.気分障害の患者の精神状態・問題行動と援助方法</li> <li>8.アルコール症の患者の症状アセスメントと援助方法</li> <li>9.心身症・神経症の症状アセスメントと援助方法</li> <li>10.摂食障害の患者の症状アセスメントと援助方法</li> <li>11.パーソナリティ障害の患者の症状アセスメント援助方法</li> <li>12.服薬指導の技術</li> <li>13.S S T 心理教育 グループアプローチ</li> <li>14.レクリエーション療法 作業療法</li> <li>15.終講試験</li> </ol> |     |     |
| その他の授業の工夫         | なし   |     |     |
| 時間外学修             | なし   |     |     |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験   |     |     |
| テキスト/参考書          | 精神看護の基礎（医学書院）・精神看護の展開（医学書院）  |     |     |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">内 容</td> <td>看護師</td> </tr> </table>   | 内 容 | 看護師 |
| 内 容               | 看護師  |     |     |
| 実務経験をいかした<br>教育内容 | 精神科病院での臨床経験を活かし、精神に障害をもつ対象とその家族に対する看護について授業する  |     |     |

|                   |  |           |
|-------------------|--|-----------|
| 科目名               | 精神看護学実習  |           |
| 開講時期              | 2年   |           |
| 授業時間/授業日数         | 90時間/10日   |           |
| 担当者               | 安部由美子 専任教員   |           |
| 授業形態              | 実習   |           |
| 実習目的              | 精神の障害をもつ対象と対人関係を発展させる過程において、自己理解および対象理解を深め、精神の健康回復への援助を考える   |           |
| 実習目標              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神の健康問題を対象がどのように体験して、それがどのように日常生活に影響を及ぼしているか気づき、説明できる (DP1・DP2)</li> <li>2. 対象の発達課題、健康障害の種類、健康レベル、生活過程の特徴を理解し、日常生活に及ぼしている影響を記述できる (DP1・DP2)</li> <li>3. 対象が抱える「生きにくさ」を記述できる (DP1・DP2)</li> <li>4. 対象がその人らしく生きていくために必要な援助のあり方を記述できる (DP1)</li> <li>5. 対象の日常生活の自立を促す援助が実施できる (DP1・DP2)</li> <li>6. 精神科における主な治療と事故防止の必要性を理解し援助ができる (DP1)</li> <li>7. 実践した援助に対する対象の反応から、自分が行った看護を評価し、記述できる (DP1)</li> <li>8. 対象の気持ちをくみ、何を伝えようとしているのか受け止め、自分自身の感情を率直に伝えることができる (DP2・DP3)</li> <li>9. 対象との関りを通して気がかりな場面をプロセスレコードで再構成し、看護者として自己洞察し、より適切な関わり方を考えようとすることができる (DP2・DP3・DP4)</li> <li>10. 社会復帰施設を見学し、地域生活を支えるための社会資源と多職種との連携の必要性について説明できる (DP5)</li> <li>11. 人権を守り回復を支える精神看護の役割を説明できる (DP2・DP5)</li> <li>12. 自己の姿勢・態度を振り返り、今後の学習課題を記述できる (DP4)</li> </ol> |           |
| 評価方法と評価割合         | 実習要項 参照  |           |
| テキスト/参考書          | 精神看護学 実習要項   |           |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br>内 容  | 看護師       |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有・無<br>内 容  | 看護師 実習指導者 |
| 実務経験をいかした教育内容     | 豊富な臨床経験を活かし、精神の障害をもつ対象の理解と自己理解について授業する   |           |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 科目名               | 看護倫理  |
| 開講時期              | 2年後期  |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回  |
| 担当者               | 青木 由美子  |
| 授業形態              | 講義、演習   |
| 到達目標              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床実習で経験した倫理的問題について話あうことができる (DP2)</li> <li>2. 臨床で感じたジレンマについて話たり、相談することが大切であることがわかる (DP3,DP5)</li> <li>3. 看護師として人権を守る責任について、自己の考えを述べるができる (DP4)</li> </ol>   |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理とは？看護倫理とは？「看護者の倫理綱領」とは？</li> <li>2. 「看護職の倫理綱領」について考える</li> <li>3. 「看護職の倫理綱領」について考える</li> <li>4. 実習で感じた倫理的問題の抽出、グループワーク</li> <li>5. 救急搬送された患者、家族への対応（ジレンマ）演習</li> <li>6. 演習後リフレクション</li> <li>7. 邑久光明園施設見学準備                      ハンセン病とは</li> <li>8. 「マイ・ラブ：6つのあいの物語」DVD 視聴<br/>「あん」 DVD 視聴</li> <li>9. 人権、差別についてグループワーク</li> <li>10.11.12.13 邑久光明園施設見学</li> <li>14. 邑久光明園施設見学まとめ</li> <li>15. まとめ 終講試験</li> </ol> |
| その他の授業の工夫         | 倫理についてテキストや実際の場面を想起しながら理解を深める<br>DVD 視聴にてハンセン病の理解に努める   |
| 時間外学修             | なし  |
| 評価方法と評価割合         | 終講試験（課題レポート）  |
| テキスト/参考書          | よくわかる看護職の倫理綱領 照林社   |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有・無  |
|                   | 内 容 看護師   |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有・無  |
|                   | 内 容 看護師   |
| 実務経験をいかした教育内容     | 総合病院での臨床経験を活かし、看護職の倫理について学生と共に考える   |

|                |   |  |
|----------------|---|--|
| 科目名            | 看護管理  |  |
| 開講時期           | 2年前期  |  |
| 授業時間/授業回数      | 30時間/15回  |  |
| 担当者            | 眞鍋信一・井上智美・牧坂幸子・辻義則  |  |
| 授業形態           | 講義  |  |
| 科目のねらい<br>到達目標 | 1.看護の独自性や専門性を発揮し、合目的な行動がとれるために必要な看護管理について説明できる (DP5)<br>2.看護管理部門の目的と基本的役割について説明できる (DP5)<br>3.看護管理の今日的課題を説明できる (DP5)<br>4.ヒューマンエラーと人間の基本的特性との関係について述べる事ができる (DP1)<br>5.医療機関における安全対策について説明できる (DP1)<br>6.医療事故後の対応について説明できる (DP1)<br>7.医療安全における組織 (DP5)<br>8.患者の安全を守るために自分ができることが何か具体的に述べる事ができる (DP4・DP5) |  |
| 授業計画           | 1.医療の質が問われる時代<br>2.看護ケアのマネジメント…看護サービスのマネジメント<br>3.組織について<br>4.医療安全の考え方、医療安全管理者の役割<br>5.ヒューマンエラー 自己分析の方法<br>6.KYT 演習その1<br>7. KYT 演習その2<br>8.衛生的手洗い 演習<br>9.放射線における医療安全<br>放射線の定義・放射線の種類・分類<br>10.放射線治療・放射線障害<br>11.人間の思考の特徴、行動の特徴<br>12.倫理的配慮と安全<br>13.医療安全から患者安全へ<br>14.専門職業人として自分にできること<br>15.終講試験    | 眞鍋<br>眞鍋<br>眞鍋<br>井上<br>井上<br>井上<br>井上<br>牧坂<br>辻<br>辻<br>安部<br>安部<br>安部<br>安部<br>安部 |
| その他の授業の工夫      | なし  |  |
| 評価方法と評価割合      | 終講試験  |  |
| テキスト/参考書       | 看護学概論 (医学書院)・看護管理 (医学書院)・よくわかる看護職の倫理綱領 (照林社)・医療安全 (医学書院)  |  |
| 教員の実務経験        | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無<br>内 容  | 看護部長・看護師長・放射線技師・看護師  |
| 実務経験をいかした教育内容  | 看護部長・師長・放射線技師というそれぞれの立場から組織に働きかけている実際を学ぶことができる  |  |

|                   |  |  |
|-------------------|--|--|
| 科目名               | キャリアマネジメント 1   |  |
| 開講時期              | 1 年前期  |  |
| 授業時間/授業回数         | 20 時間/10 回   |  |
| 担当者               | 安村 美津子 ・ 北浦 あい子  |  |
| 授業形態              | 講義   |  |
| 到達目標              | 1. 自分自身のビジョンを述べるができる (DP4)<br>2. 他者と一緒に経験を積むことの大切さについて述べるができる (DP4)<br>3. ビジョンをもとに学生生活をどのように送るか表現できる (DP4)<br>4. 専門職に求められる接遇とマナーについて説明することができる (DP1)                                 |  |
| 授業計画              | 1. キャリアマネジメントとは<br>2. 個人ビジョンワーク<br>3. 個人ビジョンワークの共有<br>4. グループでビジョンワーク<br>5. クラスでビジョンワークを共有<br>6. 社会人基礎力について<br>7. 学校生活の説明<br>8. 学則について<br>9. 接遇とマナー 言葉遣いのマナー<br>10. 専門職としての身だしなみの整え方 | 北浦<br>北浦<br>北浦<br>北浦<br>北浦<br>北浦<br>北浦<br>北浦<br>安村<br>安村 |
| その他の授業の工夫         | 入学初期に計画し、自分のビジョンが明確にできるようにグループワークを取り入れる  |  |
| 時間外学修             | なし   |  |
| 評価方法と評価割合         | 3 回の課題レポート   |  |
| テキスト/参考書          | ビジョン・ロードマップ・入学前課題 (社会人基礎力・看護専門職としての将来のビジョン)  |  |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無<br>内 容  | 看護師  |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無<br>内 容  | 看護師、キャビンアテンダント   |
| 実務経験をいかした教育内容     | ・ 臨床での経験を活かし、キャリアマネジメントの重要性について教授する<br>・ キャビンアテンダントの経験を活かし、サービス業のあり方、接遇について教授する  |  |

|                   |  |            |
|-------------------|--|------------|
| 科目名               | キャリアマネジメント2  |            |
| 開講時期              | 2年前期   |            |
| 授業時間/授業回数         | 20時間/10回   |            |
| 担当者               | 近森 栄子・安部 由美子   |            |
| 授業形態              | 講義   |            |
| 到達目標              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究のステップを踏み、実施した看護を科学的に分析し、論文形式にまとめることができる (DP1)</li> <li>2. 研究をまとめる過程を経ることで、将来学び続けることのできる力を身につける (DP4)</li> </ol>  |            |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画書の書き方・データ収集</li> <li>2. 質的研究の分析</li> <li>3. 成果を発表する・論文のまとめ方</li> <li>4. 看護の実際、結果を振り返り対象理解や看護実践の考察</li> </ol>   | 1～4<br>近森  |
|                   | <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 看護研究のクリティーク視点、発表聴講の視点、論文に</li> <li>6. 適した表現方法を考える</li> <li>7. 論文作成 (経験領域から抽出)</li> <li>8. 論文作成 (経験領域から抽出)</li> <li>9. 看護研究発表会の運営・発表</li> <li>10. 看護研究発表会の運営・発表</li> <li>11. 看護研究発表会の運営・発表</li> </ol> | 5～10<br>安部 |
| その他の授業の工夫         | 小グループ制の指導体制  |            |
| 時間外学修             | なし   |            |
| 評価方法と評価割合         | 看護研究論文   |            |
| テキスト/参考書          | 看護研究 (医学書院)  |            |
| 教員の実務経験           | ○有・無   |            |
|                   | 内 容  | 看護師        |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | ○有・無   |            |
|                   | 内 容  | 看護師        |
| 実務経験をいかした教育内容     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学での研究指導の経験を活かし、基本的な研究の流れについて教授し、研究計画書の作成方法を指導する。</li> <li>・臨床での看護研究の経験を活かし、看護研究の発表会に向けて論文をまとめられるよう助言・指導する。</li> </ul>   |            |

|                   |   |     |
|-------------------|---|-----|
| 科目名               | 技術の統合   |     |
| 開講時期              | 2年後期  |     |
| 授業時間/授業回数         | 30時間/15回  |     |
| 担当者               | 大城芳讓・小林 愛   |     |
| 授業形態              | 講義・演習   |     |
| 科目のねらい<br>到達目標    | 既習の知識・技術を統合し、対象に配慮しながら対象の状態に応じた確実な看護技術を習得する (DP1 DP2 DP4)   |     |
| 授業計画              | 1. 災害看護のあゆみと基礎知識、災害看護の特徴  | 大城  |
|                   | 2. トリアージ、災害サイクル医療、NBC 災害への対応  | 大城  |
|                   | 3. 災害看護と法律<br>災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護<br>災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護  | 大城  |
|                   | 4. 看護ケアのマネジメントと事例   | 大城  |
|                   | 5. 臨床判断能力を支える看護技術演習   | 小林  |
|                   | 6. 臨床判断能力を支える看護技術演習   | 小林  |
|                   | 7. 臨床判断能力を支える看護技術演習   | 小林  |
|                   | 8. 複数受け持ち患者の看護の実践演習   | 小林  |
|                   | 9. 複数受け持ち患者の看護の実践演習   | 小林  |
|                   | 10. 複数受け持ち患者の看護の実践演習  | 小林  |
|                   | 11. 複数受け持ち患者の看護の実践演習  | 小林  |
|                   | 12. 複数受け持ち患者の看護の実践演習のリフレクション  | 小林  |
|                   | 13. 看護実践能力自己評価  | 小林  |
|                   | 14. 「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」の評価   | 小林  |
|                   | 15. 「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」の評価   | 小林  |
| その他の授業の工夫         | 事例に対する計画の立案と実践演習  |     |
| 時間外学修             | なし  |     |
| 評価方法と評価割合         | 状況設定試験 50 点 看護計画、実施記録、確認試験 50 点   |     |
| テキスト/参考書          | 基礎看護技術 II ・災害看護学・国際看護学 (医学書院)   |     |
| 教員の実務経験           | <input checked="" type="radio"/> 有  | 無   |
|                   | 内 容   | 看護師 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | <input checked="" type="radio"/> 有  | 無   |
|                   | 内 容   | 看護師 |
| 実務経験をいかした教育内容     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DPAT の経験を活かし災害看護について授業する</li> <li>・ 総合病院での臨床経験と訪問看護ステーションでの経験を活かし、対象の状態に応じた確実な看護技術と複数患者への看護実践について授業する</li> </ul> |     |